



きらめき未来塾

2015

報 告 書

【開催日程】 2015年8月7日（金）～8月10日（月）
【会 場】 全トヨタ労連研修センター つどいの丘
（愛知県豊田市）



2015年12月

認定NPO 法人きらめき未来塾

きらめき未来塾報告書

I N D E X

1.	理事長挨拶	1
2.	開催概要	2
3.	カリキュラム概要	4
4.	講師紹介・インタビュー	6
5.	講義	14
6.	チームミーティング	21
7.	ワールドカフェ	25
8.	コミュニケーションづくりについて	30
9.	発表会	36
10.	塾生について	37
11.	サポーターについて	39
12.	塾生の声～これからの目標	41
13.	保護者アンケート	43
14.	事務局総括	45
15.	事務局活動	47
16.	プレスリリース	48
17.	後援	
18.	協賛	49
19.	認定 NPO 法人きらめき未来塾会員	
20.	ご協賛いただいた法人・団体・個人	50
21.	認定 NPO 法人きらめき未来塾理事会	51
22.	事務局・サポーター・ワールドカフェファシリテーター	52

1. 理事長挨拶 お礼とご報告

きらめき未来塾は10年の節目を迎えました。11年目となった今年は、理事会メンバーの異動がありました。発起人のお一人で前塾長の吉澤健理事が2014年6月23日に逝去されました。改めて追悼の意を表したいと存じます。さらにはもう一人の発起人代表であり、塾創始者の1人でもある大石正守理事、山田茂善理事、浮氣利廣監事が退任されました。これまでの運営は、大石理事による支援が大きく、ご尽力に改めて感謝申し上げます。

理事の方々の退任にともない2015年の運営も全般に亘って見直しが必要となりました。しかし事務局長 西澤良臣理事と局員の櫻井宇多さんは変わらず実務を担当して頂いたので、運営に支障はきたしませんでした。

実施は愛知県の全トヨタ労連研修センターとし、参加塾生は32名で行われました。松浦三郎理事の御尽力によって、2014年に引き続き、多様且つユニークな講師をお招きする事ができ、塾生にとっては大変意義のある塾となったことは、塾生の感想文からも強く感じているところです。また、講師の皆さんからも評価が良かったことも嬉しい限りです。改めて、この活動に後援・協賛頂いた団体・企業・個人の皆様、ご支援いただいた寄附者様、会員の皆様、運営に携わった事務局、サポーターの皆さんの御尽力に感謝したいと思います。

さて、今年は来年のNPO認定申請が必要であり、これまで中心となって活動いただいていた西澤理事、松浦理事、山幡理事が退任されることとなりました。特に西澤理事にはスタート時より事務局長を務めて頂き、長年の御尽力に心から感謝致したいと思います。幸い今後もお力添え頂けるとの事で大変心強く思っております。理事の交替が進むことになると思われますが、此度、田中千代美様（株式会社千雅 代表取締役会長）、竹岡和彦様（株式会社日豊社 代表取締役）に就任して頂くことになりました。それを期に体制の見直しも行っており、大阪事務局に加え、東京事務局が開設され、より活性化した運営を目指して参ります。

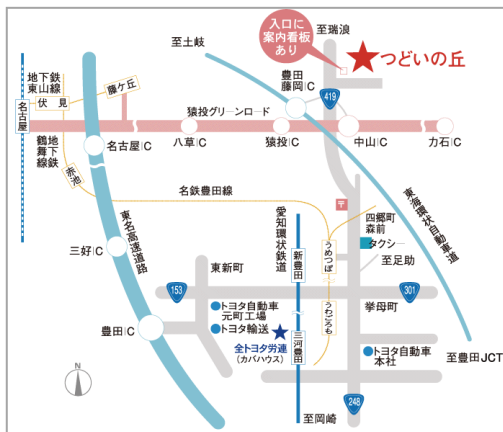
来年度の実施については現在企画中ですが、新たな活動にご期待いただくと共に、より一層のお力添えをお願い申し上げます。

認定NPO法人きらめき未来塾
理事長 水野 彌一

2. 開催概要

(1) 開催日程 2015年8月7日(金)～8月10日(月)3泊4日

(2) 開催施設 全トヨタ労連研修センター つどいの丘



全トヨタ労連研修センター「つどいの丘」

愛知県豊田市西中山町清水口133 TEL: 0565-76-1221

アクセス

【公共交通機関】

- 1) 名古屋方面から電車1時間30分：名古屋駅から地下鉄「東山線」で「藤が丘」駅まで約25分、リノモ乗換「八草」駅まで約15分、後タクシーで約20分。
- 2) 豊橋方面から電車1時間30分：豊橋駅から名鉄本線「知立」駅まで約35分、名鉄三河線乗換「梅坪」駅まで約40分、後タクシーで約15分
- 3) バス：豊田市より木瀬・加茂ヶ丘高校行きの2路線。西山中下車後徒歩約15分。

【車】

- 1) 猿投グリーンロード「中山インターチェンジ」より約1km。
- 2) 東海環状「豊田・藤岡インターチェンジ」より約2km。
- 3) 東名「豊田インターチェンジ」より約15km。

(3) 参加人数 私立・公立高校の生徒 32名

大阪府	2名	兵庫県	1名	京都府	5名	奈良県	3名
北海道	1名	栃木県	1名	東京都	5名	神奈川県	2名
静岡県	1名	長野県	2名	愛知県	4名	島根県	1名
広島県	3名	福岡県	1名				

(4) 参加校一覧

【大阪府】

大阪府立狭山高等学校
大阪府立高津高等学校

【兵庫県】

神戸学院大学附属高等学校

【京都府】

京都府立海洋高等学校
京都府立久美浜高等学校
京都市立西京高等学校
京都市立堀川高等学校
福知山成美高等学校
京都外語大西高等学校

【奈良県】

奈良女子大学中等教育学校
橿原学院高等学校

【広島県】

広島県立庄原実業高等学校
学校法人修道学園修道高等学校

【東京都】

淑徳高等学校
学校法人成城学校成城中学高等学校
本郷高等学校
安田学園高等学校

【北海道】

札幌聖心女子学院高等学校

【神奈川県】

洗足学園中学高等学校
日本大学高等学校
横浜隼人高等学校

【静岡県】

加藤学園暁秀高等学校

【愛知県】

学校法人海陽学園海陽中等教育学校

【栃木県】

栃木県立栃木女子高等学校

【長野県】

東京都市大学 塩尻高等学校

【島根県】

学校法人大多和学園開星学園高等学校

【福岡県】

福岡県立糸島高等学校

(27 校)

学年	人数
1 年	9
2 年	20
3 年	3

性別	人数
男子	18 名
女子	14 名

塾生合計人数 32 名

3. カリキュラム

(1) 概要

きらめき未来塾は、次の理念に基づき、国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材の育成、将来的に日本を担い支えるリーダーの育成を目指しています。

1. 志を抱き、実現に向け挑戦し続ける心強き人
2. 思いやりを持ち、共生できる心清き人
3. 歴史や文化を理解し、人間的魅力のある心深き人
4. 世界中の人とコミュニケーションできる心広き人
5. 強い責任感と行動力のある心熱き人

上記、5つの基本理念に加え、グローバル化した時代に即したカリキュラム設定を行いました。

塾生の募集は昨年より少人数となりましたが、その人数を生かした実施方法を考えました。

講義	医療、国際社会、芸術文化、先端技術など様々な分野から講師を招く。各講師の専門的知識や、経験をもとにした講義により、塾生に問題意識を持たせ、夢を見つけるきっかけや目標実現の指針を与える。
ディスカッション	講義後に、感想や疑問に思ったことを、塾生同士で意見交換する場を設けることにより、受け身で話を聞いているだけではなく、能動的な態度で講義にのぞみ、一人ひとりが自分で考え、発言する力を養う。
英語	英語での講義、留学生の募集など、国際化が進む社会において必須となる英語の重要性を認識する機会を設け、英語への興味や英語力向上への意欲持つきっかけとなるような時間を設ける。
チームミーティング	与えられた課題に対し、チームで意見を出し合い協力して取り組み、達成することによってチーム間でのコミュニケーションを深め、協調性を育てるとともに、創造性を深めリーダーシップを発揮する場とする。
レクリエーション 音楽	初対面同士の塾生の緊張を和らげ、話しかけやすい雰囲気を作るとともに、明るく活発な人間的魅力を涵養する。また、融和協調をはかり、コミュニケーション力、団結力を高めることを目的とする。
ワールドカフェ	カフェのような気軽なシチュエーションで、4～5人で1つのテーブルを囲み、メンバーの組み合わせを変えながら会話を重ね相互作用による気づきを得るワークショップの1手法。 当塾においては、一人でも多くの塾生との会話、さらには講師、サポーター、塾長、理事、事務局を含め、年代、立場を超え話し合うことで、多くの気づきを得る。そしてコミュニケーションの場として実施。
日本文化講座	自国の文化や歴史について知り、理解することによって、「人間的魅力のある心深き人」を育て、「グローバル人」として国際的な議論の場に参加するための素養を身につける。
発表会	塾で学んだことを糧にし、自身で定めた将来の目標について決意表明を行う。自分の目標を堂々と人の前で発表する能力を養うとともに、夢の実現に向けての明確な意識を持たせることを目標とする。

◆ 塾生は6～7人程に組分けして、チームでの活動を基本とする。

本年は、ワールドカフェ、レクリエーション等の時間で別途チームを編成し、チーム外の塾生同士が交流する時間を多くした。

また、塾生に名刺を配布し、4日間の間で全員と会話し、配り終えることを目標とした。

◆ サポーターについて

塾生の学習や合宿生活は、若手社会人や大学生からなるサポーターがフォローを行い、塾生達のファシリテーター役をつとめ、夢を見つけ目標をつくるためのアドバイスを行う。

また、レクリエーションや音楽の指導も行い、塾生にコミュニケーションの大切さを教える。

4. 講師紹介・インタビュー

しもがき まき
下垣 真希 塾長

入塾式講話「命の賛歌」

愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてケルン国立音楽大学に入学。ドイツ国家声楽教授資格を取得し、同大学卒業。5年半にわたりドイツ国際ラジオ局でDJとして活躍して帰国。

2000年、アジア代表としてドイツ・ハノーヴァー万博閉会式で独唱。2005年愛・地球博でもソロコンサートを開催した。近年は、日本の美しさや命と平和の尊さを伝えるメッセージ性の高いコンサートや、生演奏を取り入れた講演活動を全国で展開。1998年都市文化奨励賞、2001年大衆文化賞、2008年愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞。コンサート活動のかたわら、名城大学大学院で多文化共生論、同大学でドイツ語の教鞭をとっている。



塾生へのメッセージ

自分には色々な可能性があるということに気づいてほしいです。自分が普段生活している中で、型にはめてしまっているところがあると思います。未知の講義を受けることで、自分の中に「こんなこと考えることあるんだ」という驚きも見つけられると思います。色々な刺激を求めて行けるような、前向きな人間になって欲しいです。経験することが、すごく生きてくるので、その時はつらいこともあるけど、自分の血となり肉となります。痛い思いをいっぱいして欲しいし、好奇心満々でいて欲しいです。

地球上には70億人の人間が住んでいるけど、出会う人はごくわずか。ご縁のある人は不思議なほど限られています。だからこそ、良質な出会いを求めることは大事です。レベルの高い大学に行くのはそういうこともありますよね。

良い人達と出会うこと、それは自分自身が、自分の心、モチベーションを常にそういう風に持っていなければ会えないと思います。人との出会いを大切に、出会う人が限られていることを忘れないでほしいです。

時間も命も有限です。だからこそ、素晴らしい出会いをしてほしい。この塾に集ってくる生徒さんには、それなりに勇気を持って一歩踏み出そうとする、切磋琢磨して、この出会いをより広く強く、良い絆に繋げて行って欲しいです。

おだ よしゆき
織田 善行 講師

講義1.「アフターアクションで未来を切り拓く」

広島県尾道市生まれ。広島大学附属福山高校卒業、東京大学文学部社会学科卒業。

明治安田生命保険入社後、AFLACに転職。取締役人事部長、常務取締役を歴任。

アドベンチャーコーチング(株)を設立、キャリアコーチングを実践。



失敗の捉え方

① 私は、〇〇で失敗した」 ②「私は、ダメな人間だ」という考え方がありますが、②が日本人の典型的な考え方です。小さい時からそう育てられているので。無意識のうちにそう感じてしまう。そのように考えた時に「待てよ」と思って、一瞬立ち止まる必要があります。自分はまた消極的な考え方をしているなど。

失敗したからと言って、自分が駄目な訳ではない。その時は必ず、Next Time が必要です。次は良くやって見せると、それを言えれば自分に言い聞かせられる、①に変える事ができます。

夢を実現させるには、夢→希望→目標と結晶化させること。目標の後ろには？

具体的な目標から入りたい人は、その背後の目的を考えます。何のためにこれをやりたいのかを考えるようになれば、夢は必要ない。

例えば、出世したいということであれば、何のために出世したいのかということになる。何のためにというのは、色々ありますね。「家を持ちたい」「綺麗な女性と結婚したい」でもそれはそれで、個別の目標をたてれば良いわけです。彼女を幸せにするために、お金が必要、だから仕事を頑張る、そして出世したいということです。

高橋尚子さんは、「シドニーオリンピックでメダルを取ること」が目的でした。目標は何かと言ったら、2時間40分を2時間20分にするということです。目標の背後には実はもっと大きな目的があるのです。

やなぎさわ ゆきお
柳澤 幸雄 講師

講義2. 「未知の病に遭遇したとき」

開成学園校長。東大化学工学科を卒業。SEとして勤務後、東大大学院で博士号取得。ハーバード大公衆衛生大学院の准教授、併任教授を経て、東大大学院環境システム学専攻教授。空気汚染と健康に関する研究と教育に従事。



塾生へのメッセージ

人が生きている時、出会いは運命的なものです。きらめき未来塾に来て、私を始めとして色々な人の講義を聴く、その中に何が自分の中で残るか、それは千差万別です。

僕の授業の中でも、内山先生のあの言葉、多分ずっと覚えて引き継いでいるのは、この世で僕だけだと思う。それが自分の人生の中で非常に大きな影響力を持っている。どこでどう会うかは運だと思えます。

例えば、恋をすること、男性と女性がいて、色々な人とすれ違って、色々な人と出会う。その中で、ピカピカとなる相手というのがいる訳です。それは、「こういう人」というのではなく、女性で言えば、一人の男性に集まる訳じゃない。街を歩いていると色々なカップルがいて、なんでこれがカップルになったんだろうと思うこともある。でもそれは「出会い」。人が皆違うから、そういうところの出会いで感覚がある。色々な話を聞いて、そこでピカッと、この経験、あるいは話は忘れられないという言葉を見つけられたら、それは非常に素晴らしいことです。

ここに限ったことではなくて、色々な時間を過ごしていく中で、忘れ得ぬ瞬間がある。自分の将来のものの考え、座右になるような考え方、そういうタイミングに出会ってほしい。それは同時に素晴らしい女性、素晴らしい男性と出会うと同じことです。どう考えたって、カップルになるっておかしいことでしょ。人は皆同じように。そういう出会いを維持し、発展させる意識を皆もっている。それをどういうところで意識するか。それが重要であって、誰にでも共通している恋心であるとか、それをもう少し、その構造はどうなっているのかと考えると人生は色々な面で、ものすごく豊かになります。

こさか あやの
小坂 文乃 講師

講義3. 「孫文と梅屋庄吉 ～Transnational な生き方を学ぶ～」

東京生まれ。中学・高校時代を英国で過ごし、立教大学社会学部観光学科卒業。英国系企業を経て、現在、日比谷松本樓代表取締役副社長。梅屋庄吉の曾孫として中国宋慶齡基金会他、交流事業・研究活動に従事する。著書に、「革命をプロデュースした日本人(講談社)」、「ナガサキ人梅屋庄吉の生涯(長崎文献社)」がある。



基本理念「世界中の仲間とコミュニケーションができる心広き人」

孫文の梅屋庄吉の関係のように、外国人と密な関係を築くために重要なファクターとは

孫文と梅屋の時代は、言葉とかどうしてたんですか？という疑問があると思いますが、漢字というのがあったのと、梅屋が長崎人だったので、外国の方が普通に闊歩しているような町で生まれたので、そういった相手に入っていきやすい雰囲気の中で育ったというのが1つあると思いますね。日本人というよりも、世界の中の、いろいろな人がいる中の一人として、小さいときから意識があったと思うんですよ。これはすごく個人差があると思うんですよ。

言葉もすごく感覚的で、音楽みたいに他の国の言葉が覚えられていく人もいれば、一生懸命受験勉強みたいにやっても、いざ目の前に外国の人がいると喋れないとか、個人差はすごくあると思います。

でも、これは、好きになること以外になにもなくても。音楽でも、どうしてもこの歌詞の意味が知りたいみたいなどころから一生懸命やるとか。スポーツとか、そういうところから共感する、同じものを見ていくという。サッカーのルールとか、言葉が出来なくてもひとつのグラウンドで戦えるわけですから。共通の体験とか、人間だから、本当に好きだったら、本当にお互いが大事なものだと思えば、越えていくわけよね。

絶対的な方法ってないと思っていて、必要になること、どうしても必要になること、好きであること。

そして、自分にとってどうしようもないシチュエーションになると越えられるんじゃない？壁って。全てのものに対して、どうしようもないこととか、どうしてもそっちに行きたいときとかに壁を越えられる。

そういう意味から、日本は、今その壁を越えなくてもいいシチュエーションなの？それとも越えなければいけないシチュエーションなの？ということなんじゃないのかなと思うんですよね。世界全体が、色んな壁を越えてぐちゃぐちゃに色々と混ざっているし、環境の問題ひとつとっても、空とか海とか領海を設けてあるけど、そんなもの平気で飛び越えていくじゃない？放射能でも、PM2.5でも。そんな時に、なんとか線とかいっている場合じゃないですよ。

飛び越えなきゃいけないシチュエーションに、経済でも環境でも色々な意味で来ているのだから、どうするの？ いいの、このままで？ やっぱり飛び越えなきゃいけないって思った時にそんなものは多分、言葉とか、なんとかって、飛び越えられるんじゃないのかなって思います。

すずき のりひこ
鈴木 典比古 講師

講義4. 「21世紀のための国際教養」

栃木県生まれ。一橋大学経済学修士課程。インディアナ大学経営大学院博士過程 DVA(経営学博士)。ワシントン州立大学助教授・准教授、イリノイ大学助教授、国際基督教大学教授等を経て、2004～2012年まで、国際基督教大学学長。大学基準協会専務理事を経て、現在、公立大学法人国際教養大学理事長・学長。



留学する際に身につけて欲しいことは

色々なことにぶつかるわけですね。色々なことにぶつかるけれども、柔軟性を持って、物事を相対的に考えるということ。とにかく、柔軟に対応する気持ち、あるいは、自分にこれは大したことはないと言い聞かせる気持ち、そういうことが必要ですね。

何事ももちろん真剣に取り組まなければいけないんだけど、つらい状況だとか、わからない状況だとかが出てくるんだけど、それを内に抱え込まないで、なんでこうなるの？とか、どうしたらいいの？とかいうのを外に出すということが必要ですね。言葉の問題もあるけれど、誰だって付いて回る問題だから、流暢な外国語でなくていいですよ。それよりも、色々なつらい事や難しいことが起ったときに、内に抱え込まずに、何で？どうしたらいいの？というふうに相手に色々聞いていくということが、一番大切だし、問題の解決になりますね。外国に行くというのは非常に楽しいことですよ。だから、それを十分にエンジョイするということが大切ですね。何でも積極的にやっていくということ。

英語が苦手な人へ

英語が苦手っていうっても、パーフェクトに英語が話せるひとなんていないわけだから。アメリカ人でもイギリス人でも、パーフェクトに話せる人はいないわけだから。日本人だってパーフェクトな日本語が話せるかという、方言はあるし、間違った使い方を皆しているでしょ？

それから、文章を最初から最後まできちんといいますか？私は鈴木です。なんていうふうには言わないでしょ。それと同じで英語もそうなんです。だから、パーフェクトな英語なんていうのはありえないし、話す必要もない。だから、英語が苦手だという人は、苦手は苦手でもいいんですよ。だけど、とにかく、外に向かって話をしていく、あるいは自分を表現するというのを心がけていくということですね。あまり苦手意識と言うものを持たないということ。

ほそみ じゅんこ
細見 純子 講師

講義5. 日本文化講座①「茶道とは何か」

裏千家インターナショナル幹事。茶道暦は30年弱。世界で初めての茶道用語辞典英訳本、学生向け裏千家茶道テキスト英訳本の翻訳および編集に携わった。1994年より、裏千家インターナショナルに所属し、国内外の裏千家行事における、主に外国人に対しての英語での茶道紹介や、ローマ・ヴァチカン献茶式及び茶会、世界ユネスコ会議での海外要人への呈茶、日韓中東アジア茶文化シンポジウム、フィレンツェジャパンウィークでの茶道および華道デモンストレーション等々、海外での茶道国際会議に参画。



アメリカでの「気軽に飲める抹茶、飲物としての抹茶」としての流行について

そんなに作法を守ることに目くじらを立てるのではなく、間口は広くていいと思います。ロシアの友人がお茶のディーリング（売、買、卸）をしているのですが、彼は完全にお茶は、「リッチな人たちの贅沢なセレクションの中のひとつに入れる」ということで、ロシアの高級レストランにお茶を卸しています。さらには宇治の老舗からすごくいいお茶を直接買い付けて、高級レストランに卸しています。そうしたレストランでは、そこで抹茶を点てるわけではなく、豊かなチョイスとして出しています。そういうものがあるということをレストランで知って、飲んでその中から、どういうバックグラウンドがあるんだろうということを知っていけば、茶道を知る糸口になるのでいいと思います。

ですから、まず知ってもらうことが必要であると思います。知った中で、興味を持った人は深く知る。深く知りたいと思う人には、奥深いのが茶道の良さで、浅く知りたい人には、それなりの楽しみ方があるのが、長い歴史を持って続いてきた文化の豊かさだと思います。むしろ、気軽に楽しみたい人を排除するのは、狭量であり豊かではない文化だだと思います。

高校生に、茶道を通して伝えたいこと

出会いというか、今ここで体験できることをプラスにとらえて、自分にどうやって活用していくか。それを、自分が感覚を研ぎ澄まして臨機応変に対応できるように、そういう人間になることが、茶道なんだと。武道でも、華道でもいいんです。同じ事をやり続けることで、たとえば、お点前、次どうだったかなとかゆうことでなくて、無意識に出来るくらい感覚を離れるんですね。そこまでの境地にいけば何者も怖くなく、寂の精神を体得できると思います。私もまだそこまではいってなくて、そこを目指したいと思ってやっています。どれだけかかるかわかりませんが、目指すということが楽しいですね。その楽しさをわかってもらえたらなと思います。豊かな人生になると思います。

もりやま あきひろ
森山 明宏 講師

講義6. 「1つの命はすごい確率の中からつくられる」

医学博士(大阪大学)、日本産婦人科学会専門医、麻酔標榜医。

大阪市内で最年少部長として大阪府済生会中津病院で勤務しており、年間分娩数 500 件、ガン手術等 300 件を行う傍ら、ラジオ DJ、クラブ DJ としての顔をもつ異色のドクターである。

“whose connection” abc1008.com



ボランティアという形での卵子提供について

現状では卵子提供は、法的な整備ができておらず、色々なところでフライングして行われています。個人的には、卵子・精子提供という受精方法に関しては構わないと思いますが、しかし、しっかり法を整備されたうえでやるべきであると考えます。

日本の場合、十分にまだ議論しておらず、結果的に結論が出ていないという現状です。

晩婚化が進み、高齢出産が多くなってきているという現状がある中、若い世代の高校生たちへ

現状として、医学が進歩して、体外受精など今まで妊娠できなかった年齢の方も妊娠できるようになってきている。しかしまだまだ確率は低く、子供を産める年齢は決まっています、いくら医学が進歩してもなかなか状況は変わりません。

年齢を重ねるほどリスクが伴うことも知識として得てほしい。仕事が忙しくなって、結婚が遅れ、必然的に出産が遅れるということはあるけど、若い方々には、生める時期は限られているんだということをしっかりと認識した上で、自分の生き方を選択してほしいと思います。

きがわ こずえ
木川 梢 講師

講義7. 「世界がもし100人の村 だったらワークショップ」

関西インターナショナル ハイスクール講師。環境、人権、南北問題などのグローバルな問題についてのワークショップのファシリテーター。



討論「難民を受け入れるべきか」について

難民受け入れ反対の人が多かったので、少し残念でした。受け入れることのしんどさ、厳しさは沢山ありますが、いつまでも避けてはられない問題ではないでしょうか。

これから考えるきっかけになれば良いと思います。あの時、そういう話がでていたなど。今日は種まきの状態ですね。

英語を使っのワークショップの工夫

楽しい雰囲気を作って、間違っても大丈夫という環境をつくるのが大事です。ただ、深い内容になると、英語では難しいので、そこは日本語でいいよと。

英語はあくまでもツールで、内容の方が大事ですから。英語はゲーム性が高く、楽しい、何か言わなくてもいいシーンで使うようにして、後半のディープな内容は日本語にする。日本語で言えないものを、英語では絶対言えませんので。

立川志の春講師

講義8. 日本文化講座②

「日本の笑い『落語』を世界に！」

落語家。立川志の輔の三番弟子。大阪出身。
イエール大学を卒業。7年間をアメリカで過ごす。三井物産に入社し、
3年半の勤務の後、落語家に転身。2002年入門、2011年二つ目に昇進。
古典・新作・英語の三種類の落語を演じる。



サラリーマンから落語家に転身する時

僕自身には不安は全くなかったんですね。「落語をやらないと後悔する」というその思いだけが大きくて、才能がないんじゃないだろうとか、稼ぎがどうかとかいう思いは一切なかったですね。本当に不思議ですよね。やったことなのに。

落語家にとって一番大切な事とは

技術的なことというよりも、お客さんと共感するという部分や、何を求めているのかを感じるという

こと。僕の師匠がよく言っていたのは、「落語はアートとサービスの間にあるんだ」ということなのです。アートの部分は、こういう落語をやるんだという芸術の部分ですよね。サービスの部分は、お客さんが何を聞きたいのかっていうことを察してそれを提供すること。その間でどこをとるのかということなんだけれど、そこからはずれてしまったら、それは多分落語ではないということです。大衆芸能でもあるので。そうゆう選択肢もあるかもしれないけれど、でも、この枠の中でどこを取るのか。その時々によって違うだろうし、人によってもアート寄りの人はいるだろうし、サービス寄りの人もいるだろうし。でも、両方ないといけないと。

きたはら たつまさ
北原 達正 講師

講義9. 「ロボット研究室 火星探査ロボットを作ろう！」

京都大学理学部卒業。同大学院理学部博士課程で宇宙物理学を専攻。
京都大学ほかで、天文学やコンピューター関連の非常勤講師を務めながら、平成13年7月に「子供の理科離れをなくす会」を発足。
平成26年より、一般社団法人 国際科学教育協会 代表理事。



ICTについて

ICTのCとはコミュニケーションですね。相手があってこそそのコミュニケーションです。プレゼンテーションというのは、相手を説得するために行います。同じ切り口で喋っていたらどこでもいいと言う訳はなくて、その時の聴衆の雰囲気や空気によって変えます。それこそがコミュニケーション。

数年前のリーマン・ショックの時、100社エントリーシートを書いて、1社も面接に呼ばれないという話がありましたね。資質とか時代背景もあるかもしれませんが、しかし、内定を3つも4つも貰っている学生もいました。何故か。100書いているエントリーシートには全部同じことを書いているんです。つまりサービス業であろうが、建築業であろうが、食品であろうが同じことが書いてある。電気メーカーでもソニー、シャープ、パナソニック、抱えている問題も方向性も違う。その中で自分が一番共通していることでマッチングをする、そういうことをやらないと。

例えば、5人の女の子に皆同じ口説き文句を言うなんてあり得ないですね。大学でこんなことをやりましたと一方的に話しても、女の子にとっては知らないことですよ。女の子の持っているバックから、ルージュの色からどんな情報をとれるか。例えば心理学的な要素もあるかもしれません、あるいは質問から持っていくコーチングの技術も必要かもしれません。

これ全部科学ですよ。だから、Information・Communication・Technology (ICT) ですね。コミュニケーションも立派なテクノロジーなのです。

コミュニケーション能力とは

曖昧なものだし、それに対し誰も実証的なものをしていない。グローバルとかサイエンスもそうです。英語業界は、グローバルは英語ができることと思込込まそうとしています。僕は英語ができることより、価値観の違う人間と働ける方が大事と定義を変えた。そうしたら賛同者が増えました。そのためにはサイエンスがいる、数字に強くないといけない。

コミュニケーションもそうです。まず相手を知る観察力が必要。そしてそれを支える博学な知識がいる。国語、社会等ジャンル化されたものではなく、雑学ですね。

僕は、痛い経験を早くさせる方がいいと思っています。そして、科学は理系の特別なものという意識をなくす。野球で人間形成ができるというなら、科学実験でだって絶対できる。10回失敗した実験を11回目やりなおすというのはハートが強くないとできません。他の人と違うなとこそこそ消しゴムで消して書き直す人が原発をつくったら大変なことになる。しっかりとこれは自分がやったこと、納得いかないならいくまでやり直す、それはスポーツだと必ずやりますね。これを中途半端にさせている理由は、科学をエンターテイメントのようにしてしまい、道具を子供向けのものに落とし込め、4人に1つしか実験道具がなくても平気でさせている。グローブが4人に1つなんて野球では絶対あり得ません。

僕達はこう言います。「試行錯誤しろ」。試行錯誤というのは失敗が前提になっている言葉です。道具がなくてどうやって試行錯誤するのか。解剖実験すら4人に1つでやらせて、医学部を目指せというのはおかしい。だから絶対に2人で1つ使えるようにロボットとPCを、どんな離島でも持ってきます。2人というのはコミュニケーションの最小単位であると同時に、多数決が使えない。相手を説得するしかありません。それができたら1人ずつ。ロボットは、電子工学、情報工学、機械工学、ものづくりの基本が全部入っています。1つでも秀でていたら飯が食べられる。他のどちらかに秀でている人とチームを組めば最強ですね。即ち、IOT (Internet of Things)、MOT (Management of Technology) に繋がっていきます。今それをやっているのです。

たなか よしかず
田中 義和 講師

講義 10. 「燃料電池自動車 MIRAI の 開発水素社会実現に向けたイノベーション」

京都大学工学部、同大学院を終了し、1987年4月トヨタ自動車入社。
オートマチックトランスミッションのハード開発、制御開発を担当。
初代 Vitz の新型 4AT 開発、FR 用多段 A/T の開発を担当。
2006年3月製品企画部門へ異動、PHV 車の開発を担当。
2007年より開発責任者として、プリウス PHV の製品企画を担当。
2012年1月より、燃料電池車 (FCV) 開発責任者として、製品企画業務を担当。



イノベーションのためにチャレンジを起こす原動力とは

やはり PHV (プラグインハイブリッド自動車) の時もそうでしたが、難しい技術ですが、達成した時の喜びはすごく大きい。苦勞はすればするほど結果は良くなるという経験もあって、簡単にできたものは人を感動させることはできないし、オンリーワンとかダントツな技術になりえないという思いもあります。難易度が上がれば上がるほど、燃えるということはありませんね。

仲間と力を併せて、大きな壁に挑んで越えた時の喜びはひとしお、言葉では言い表せないものがあります。チャレンジをするとは、できることの喜びも含めて原動力になったのかもしれないですね。

世界で戦うために重要なこと

難しいですね。参考になるようなことは言えませんが、よく「こういう高校だからこういう大学」「こういう成績だから将来こんなもの」という人がいますが、皆さんの可能性は無限大だと思います。

自分はこういうものと思った瞬間、それが終わる時だと思うので、過去のことにとらわれず、自分が今何をやりたいか、自分がどうありたいか、夢を持ち続けて、そして努力する！夢を持つだけじゃなく、しっかりと実現できる努力をすることによって、きらめき未来塾じゃないですけど、皆さんの未来はきらめくものになると思うので、あきらめずに努力をし続けてください。口で言うのは簡単ですが、必死になって、努力して、実現できるまで頑張ってください。決して、決めてかかってはだめです。決めてかかっては何もできなくなります。自分達の未来は自分で切り拓くものです。

5. 講義について

本年の講義は、1 講義 120 分をベースとし、講話がメインの場合、後半 60 分は講師への質問と、塾生同士のディスカッションの時間とした。ディスカッションのテーマは、講師にテーマを設定していただいた。また、塾生に意見を求める双方向型で展開する講義やワークショップ等を行う場合、120 分をフル活用してもらった。

講義のジャンル、講師の選定については、きらめき未来塾の理念に加え、昨年から引き続きグローバル化した時代に即したカリキュラム設定を行った。また塾生の募集が昨年より少人数となったため、実習などを多く取り入れ、参加者がより主体的に学べる塾を目指した。

1 日目

入塾式の塾長講話からスタートする。下垣真希塾長からこれから 4 日間様々なカリキュラムで学ぶ塾生達に、命の尊さ、そして学ぶこと、伝えること、人との出会いを通して命を輝かせて生きることの大切さをメッセージとして送る。

続く織田善行講師は、「アフメーション」について学ぶ。アフメーションとは、自分のやりたいことを一人称・現在形で書き、あたかも達成したかのように表現することである。塾生は最終日に塾で学んだことを振り返り、アフメーションを作成し発表をする。この塾の核とも言える講義で、将来の夢を持っていても、まだぼんやりとしか描いていない高校生達に、「夢を実現するためには」「失敗の捉え方」という話は多いに刺激になったようだ。

2 日目

昨年に引き続き、柳澤幸雄講師、小坂文乃講師そして、初めてお招きした国際教養大学の鈴木典比彦講師の講義となった。柳澤幸雄講師は、未知の病が発生した時、様々な状況や立場を仮定して、「自分ならどのように行動するか」ランダムに塾生に質問しながら講義を進めていく。最初は単純な回答だったが、後半になるにつれ、塾生達は非常に沢山、色々なことを考えるように変化しているのが感じられた。講義の内容からも、講義の進め方からも学ぶことが多かったようだ。

しかし時間については、高校生にとっては今年の 90 分の方が適正であったとも感じられた。

小坂講師は、国際問題を取り上げる場合、日本にとっては外すことのできないのは中国との関係である。学校で学ばなかった国を越えた友情が歴史を動かした事実を知り塾生からは「中国の認識が変わった」「個人が仲良くできたからといって国同志が仲良くできる訳ではない」など、様々な感想があったが、環境においても、経済においても国境を越えた問題は今後益々増えていくだろう。これからの日本を担っていく高校生達には、先人達から学び、近隣国との付き合い方を是非考えてほしい。

国際教養大学は、秋田県に 2004 年に設立された大学で、人材教育で注目されており大学ランキングでトップをとり高い就職率でも注目を集めている大学である。

その大学の学長である鈴木講師は、21 世紀のグローバル化が私たちに突きつけている問題は、語学よりも日本人という確固たるアイデンティティを持って、世界を舞台に活躍できる人材になることである。単なる一般教養とは違う「リベラルアーツ」、そして集団性を重んじてきた日本人にとって「個の確立」とは難しい内容であったかもしれないが、この講義、そしてきらめき未来塾を通して自分自身を見つめ個を確立するきっかけとなってほしい。

3日目

これまでも登壇いただいた森山明宏講師と木川梢講師。産婦人科医である森山講師は、毎回塾生からの反響がとても多い講義である。少し高校生にとって近寄り難いテーマである「受精のメカニズム」を西宮神社の福男選びに例えて解説する。そういった医学的な知識の話だけではなく、「私達はいかにすごい確率の中から生まれてきたのか」を説き、「人は皆使命を持って生まれてきた」と伝える。講義後のディスカッションでは、「命」をテーマに活発な意見交換が行われていた。

国際的な人権問題を専門とする木川講師のワークショップでは、少し前にインターネットで広まった「100人村」をテーマに、世界の格差について学び、現在ヨーロッパで今大きな問題となっている「難民」について討論を行った。難民の受け入れ実績がほとんどない日本。討論でも受け入れ反対の意見が多く出ていた。しかし遠くない将来そのように言っていられない時が訪れるかもしれない。「今回は種まき」と木川講師は言っていたが「難民の問題について、深く知りたい」という感想があったのは大きな収穫だろう。

4日目

最終日は、北原達正講師の「ロボット研究室」と、急遽、講師としてきていただけることになった、日本の最先端テクノロジー、トヨタの燃料電池自動車MIRAIの開発責任者 田中義和講師である。

北原講師のロボット研究室は、塾生達に衝撃を与えた講義だった。科学館などで行われる「ロボット実験」を想像をしていたら大きく覆されたに違いない。甘えや妥協を許さない「本物」に触れさせること。常に緊張感を持たせる講師からの問いかけられながら、ロボットのプログラミングに取り組む。社会で生きること、世界で戦うことを意識させる講義だったようだ。

未来塾最後の講義は、開催地は豊田市、そして会場も全トヨタ労働組合研修センターということで、入塾式にも特別講話としてトヨタの方にお話いただいたのだが、開催間近になって、実際に開発を担当している方、しかもPHV車の開発、そして燃料電池自動車(CHV)の開発責任者の方に来ていただけることが決定し、驚くとともに、塾生達にとって日本の企業の最先端技術に関するお話が聞けることは貴重で良い経験になるだろうと嬉しく思った。

CHV車の仕組みとその開発秘話について、そして水素という新しいエネルギー。技術面では少々難しく感じた生徒も多かったようだが、質問が多くでたことによって、そこで理解し学びを共有できていた。しかし最後の講義であり、ロボット研修の疲れがでてしまっている生徒が多くいたのが残念だった。最後には、実際のCHV車MIRAIを見る事もでき、塾生だけではなく大人達も興奮気味だった。



日本文化講座

本年は「日本文化講座」というタイトルで、「茶道」と「落語」をカリキュラムに取り入れた。共に、インターナショナルに活躍する講師である。

茶道の細見純子講師は、裏千家インターナショナルに所属し、茶道の英訳本に携わったり、海外で茶席や茶のデモンストレーションを行っている。

講義では、茶道の歴史と実際にお茶を点て茶道の心を学んだ。昨年は、大人数であったことから2班に分かれ会場の入れ替えなど、慌ただしい面があったが、今年は和室で全員が心を落ち着けて学べたことも良かっただろう。

落語は、立川志の輔の三番弟子、立川志の春講師。イエール大学を卒業し、総合商社勤務の後、落語家に転身したという異色の経歴を持った方で、海外で英語落語の講演も行っている。

何故落語家の道を選んだか、そしてその後の修行の日々について笑いを誘いながら語る。それから空気が一変、落語へと入る。初めて落語を鑑賞する塾生も多く、皆、話の世界に引き込まれていた。

国際的な議論の場に立つためには、世界の国々や情勢を知ることは勿論大事だが、自国を知ることが必要である。静寂を求める「茶道」と笑いを求める「落語」。異なった性質を持つ二つの伝統文化とそこに込められた日本の精神。そして、自動車開発から学ぶ、世界に誇れる日本の技術。受け継いで、伝えていってほしい。そして胸をはって世界に発信してほしい。

非常に熱心に講義を受け、感想文からも塾が期待している以上のものを学んでくれた塾生達だが、やはり、毎年のことだが、居眠りしている姿が見受けられたこと、質問の手があまり挙がらなかったのも残念だった。昨年は質問の時間を長くしてほしいという声が多かったのだが、人前で話すことを苦手とする塾生が多かったためか、発表することに慣れてきた後半は増えてきていた。またディスカッションは活発に行われていたので、その中で疑問がでてくるのではと、ディスカッション後に質問の時間と順番を入れ替える工夫も行った。

また、手を挙げ質問だけする生徒も多かったことから、挨拶、所属校、名前を述べてから質問と礼節についても合宿生活を通して指導していきたい。

本年のカリキュラムは、第4回目以来の3泊4日の開催ということで、より密度の高い内容となるよう計画を行った。内容は勿論、講義形式もバラエティーに富んだものとし、運営側は会場移動にセッティング準備するのが特に大変ではあったが、常に新鮮な気持ちで取り組めたのではないだろうか。



入塾式・塾長講話 「命の尊さ」

下垣 真希 塾長（ソプラノ歌手、名城大学大学院多文化共生論講師、名城大学ドイツ語講師）
音楽の可能性、言葉で伝えることの大切さ、そして自身が留学していたドイツの街づくりや森づくりそして人造りを学び、戦争、日本で平和に暮らしている私達を通じ、平和と命の尊さについて考える。

【塾生の感想】

『お話を聞いて、自分が日本について何も知らない事に気づかされました。また、他国との交流を深める為にも、戦争を起こさない為にも知っておく必要があり、それを相手に言葉で説明できる力が必要だということが分かりました。』

『「自分の命、生きることには今までこの命をつないできてくれた先祖に対しての責任がある」この言葉に私は、そうなのだと気付かされた。私は先祖がここまでつないできてくれた命を無駄にせず、精一杯生きていきたい。』

講義1. 「アフターアクションで未来を切開く」

織田 善行 講師（アドベンチャーコーチング株式会社 代表取締役）

夢—希望—目標の関連性について学び、自分の目標を達成したいのであれば、それを明確にイメージし、書きとめることが大切である。

【塾生の感想】

『夢と希望は違う、ということ強く思い知らされた。何のために？と常に考えて行動することで、目的、目標が明らかになる。ということをお話されていて、心に留めて行動しようと思った。また、「失敗というのは、自分が失敗だと認めて、やめた時が失敗なのだ。」という言葉で、失敗はマイナスと捉えることをやめようと思う。』

『自分の目標や夢を書きだすことが、その実現に向けて大切だということを知ることができました。私は進学を考える時に、大学の偏差値をまず見ていたので、もっと本格的に進路を考えるときには、自分が何をしたいかを基準にして決めたいと思いました。』

講義2. 「未知の病の遭遇した時」

柳澤 幸雄 講師（学校法人開成学園 開成中学校・開成高等学校校長）

水俣病発生時の、関係者の対応を根底に置いた仮想ケーススタディーを教材に、双方向型の講義を展開。ランダムに生徒を指名して質問を行うことにより自己の判断を形成する。

【塾生の感想】

『自分が責任のある立場になったら、情報が不完全でもきちんと対応しなければならないという言葉が印象に残りました。また発言をするのはすごく苦手なのですが、発言する準備をしているだけで沢山のことを学べて良かったです。』

『当てられるかもしれないと思うことで発言する準備をするために、脳を活性化できると聞いて、学校の授業でも常に意識して受けて内容の濃いものにしようと思った。また、自分の言葉で誰かに説明することで、自分の知識が身につくので、覚えたいこと等は声に出して覚えようと思った。身近な社会問題を当事者として考え、意見を持つことから広がることもあると思うので、やってみようと思う。』



講義 3. 「孫文と梅屋庄吉～Transnational な生き方を学ぶ～」

小坂 文乃 講師（日比谷松本楼 取締役副社長、中国宋慶齡基金会理事）

100年前のアジアに生きた中国人孫文と日本人梅屋庄吉。辛亥革命の中心的役割を果たした孫文と物心両面で支えた梅屋庄吉夫妻の友情とヴィジョン、そして、二人の友情が現在に至るまで日中の懸け橋となっていることを、史料や昨今のアジアの情勢をふまえながら説明する。

【塾生の感想】

『孫文のことは日本史で習ったりしていたのである程度知っていましたが、その裏で彼をサポートしていた梅屋夫妻のことなどについては初耳で、とても勉強になりました。孫文も梅屋庄吉も他国を回って様々な視点から世界を見てきたからこそ、冷静に国際的問題に向き合うことができたと感じ、異なる価値観の重要性について学べたと思います。』

『違う国の2人が国境や言語の壁を乗り越え、友情を育んだことに感動した。梅屋庄吉にメリットはないだろうに。沢山の人の幸せのために自分の財産を他人に渡すのは人間として素晴らしいと思った。』

講義 4. 「21世紀のための国際教養」

鈴木 典比古 講師（公立大学法人国際教養大学 理事長・学長）

21世紀に入りグローバル化がますます進展する中で、国の境を越えて人材の移動が激しくなっている。そのような世界でリーダーシップを発揮していくためには「個」の確立が不可欠である。グローバル化時代における「個」の確立について多方面から考える。

【塾生の感想】

『グローバル時代は「あなたが地球の中心になる」という言葉が1番印象に残っています。他にも「学校の授業が成功するかどうかは生徒にも責任がある」という言葉も印象に残っています。』

『「個を持つ」ということと「個を確立する」とは似ているが、違うものだとディスカッションを通じて気づくことができた。そのことで「個を持つ」ことから「個を確立する」プロセス（相手の意見を取り入れつつ自分の価値観を確立していく）の大切さを学べた。最後に学長がおっしゃっていたが、双方向の授業では、生徒達もクラスを積極的に発言できる場にする責任があるということを実感しなければいけないと思った。また個人主義というのは、自己中心的なイメージを持っていたが、良い意味で自分本位になって道を開くという意味があるとおっしゃっていたことが、イメージを覆されて印象に残った。』

講義 5. 日本文化講座①「茶道とは何か」

細見 純子 講師（裏千家インターナショナルアソシエーション 幹事、
中部品質管理協会 経営企画室 兼 企画部 次長）

茶道は、決して過去の長い歴史をもった伝統的なものというだけではなく、グローバル化した多様な今の世界を生きる我々にとって意味のあることになりえる。この観点で考えていくと「茶」、そして「茶道」は長い歴史を持つゆえに、また、建築、花、道具、言葉、コミュニケーション等々、様々な要素があるゆえに、その答えも一つではない。講義と茶を点てる体験を通し、それぞれの「茶道とは何か？」を見出し始めるヒントを与える。

【塾生の感想】

『2013年に参加したキャンプでも茶道をやったが、今回学んだものは歴史的背景がからんでいたり、実際に自分でお茶を点てて、逆に点ててもらったりしたので、新たなことが学べたのでとても充実した講座になった。一番最初に残ったことは「和敬静寂」でこの1つの単語で茶道が語れることがすごいなと思った。』

『作法一つ一つに意味があり、感謝を込めてお茶を点てる、素晴らしい文化だなと思いました。また、日本の価値観＝和、和＝協調し合う。これを海外の方にも伝えられたらいいなと思いました。』

講義6. 「1つの命はすごい確率の中からつくられる」

森山 明宏 講師（大阪府済生会中津病院 産婦人科部長医学博士 日本婦人科学会専門医、
麻酔科標榜医）

1つの命が誕生するには1匹の精子と1つの排卵をした卵子が会うことがすべての始まりである。その出会いである受精のメカニズム、受精までにくりひろげられる神秘的かつ創大なスケジュールの準備について話をします。

【塾生の感想】

『自分の命は母からももらったというだけではなく、そこまで受け継いでくれた先祖からもきていると学んだ。女性はすごい確率の中からつくられた自分の命を大切に生きていこうと思った。ディスカッションは3回目ということもあって、皆たくさん自分の意見を言えて、とても楽しくて、こんなにも面白いことなんだと思った。』

『産婦人科の医師は大変だと思った。(医師数が少ない、身体的にきつい等) 先生は分娩の他にがん手術、不妊治療についても担当しているということだったが、これを「好きだから」という理由でできるのが人として素晴らしいと思った。医師になりたいと思っているので心を見習いたいと思う。』

『「命の大切さ」についてディスカッションをして、命は大切だというのは当然のことだと思っていたけれど、なぜ？と言われると答えられないと思いました。でも今回皆の意見を聞いて深く考えられてよかったです。』

講義7. 「世界がもし100人の村だったらワークショップ」

木川 梢 講師（関西インターナショナルハイスクール 講師）

世界には、70億以上の様々な人がいるが、それを100人に縮めてみたらどうなるだろうか。様々な言語、人々、文化と多様性に満ちたこの豊かな世界、一方グローバル化の中で進み続ける貧富と格差。メールメッセージで広がった「世界がもし100人の村だったら」を題材に、実際に体を使いながら世界の格差や多様性を体感する。

【塾生の感想】

『自分達が動くことで、今この世界がどんなものなのか、知ることができました。正直知らないことも沢山あったのでよかったです。また、国際問題の1つである難民についても、深く考えることができました。世界の今について、もっと知りたくなるようなワークショップでした。』

『世界を32人にスケールを小さくして理解しようというものだった。資源の配分の不平等性などは分かりやすかった。また、難民受け入れについての話し合いでは、今の日本の状況、特に国民の感情やケアの面から厳しいのではないかという意見が多かったのが印象的でした。国際間の格差については、格差をなくすことはかなり難しいと感じた。しかし食料難で死者がでていくことは事実でありその状況を何とかしなくてはと思う。持続可能なそして国が最終的には自立できるような支援が必要である。』



講義 8. 日本文化講座②「日本の笑『落語』を世界に！」

立川 志の春 講師（落語家 立川志の輔の三番弟子）

江戸から伝わる落語という芸能はどのような特色があるか、日本独自の落語を通じて世界に伝えられるものは何か、実際に生の落語を体験し、身近に感じてもらいたい。

【塾生の感想】

『落語のネタは 300 年以上も受け継がれており、その普遍の笑いというものに触れることができたのは貴重な体験だった。また、英語での落語は思っていたよりも面白かった。ダジャレなど音によるオチはつくれないということだったが、とてもよくできたオチだと感じた。師弟関係についても興味深い話が聞けた。師匠の考え方を完全に理解し、自らの価値観とするというのが印象に残っている。』

『立川講師のお話を聞いて、自分がやると決めたことを貫くには 1 つの筋を通す覚悟が必要だと感じました。最初のお話から落語に入った時の空気に切り替わりが凄かったです。話に引き込まれる感じがしました。』

講義 9. ロボット研究室「火星探査ロボットを作ろう！」

北原 達正 講師（子どもの理科離れをなくす会 代表、一般社団法人国際科学教育協会 代表理事）

自律型ロボット教材を用いて、本物の火星探査ロボットと同じ機能をもつローバーロボット製作に挑戦。論理思考と試行錯誤の大切さと重要性を体験を通して理解する。

【塾生の感想】

『文系、理系を問わず、科学の重要性を知った。また、普段私たちが“うっかりミス”と位置づけている計算ミスや単位などが将来人命に係わると知り、考えが改まった。ロボットコンテストで小学生が大学生を倒しているという事実、世界を見据えた人はそれを叶えるための努力を実践しているという事実。今の私にとって非常に有益な講義となった。』

『他人に自分を認めさせることが大事と言われたことが印象に残っている。日本人は、自分のことについてあまり語らないというイメージが強い。だから、このことが大事なのだと思う。そのためには自分自身をしっかり理解し、他人にアピールできるようにすることが必要だと思った。この講義は三時間と長かったが、ロボットの調整を試行錯誤しているといつのまにか時間が過ぎ、あっという間に終わってしまった。』

講義 10. 「燃料電池自動車 MIRAI の開発と水素社会実現に向けたイノベーション」

田中 義和 講師（トヨタ自動車株式会社 製品企画本部 チーフエンジニア）

会社生活での経歴を通じた、社会人、技術者としてのイノベーションへの取り組みを説明する。特に、燃料電池自動車 MIRAI 市販に向けた取り組みについて苦労話、開発エピソードも含めながら以下の観点で紹介する。①燃料電池（スタック、タンク）技術の詳細 ②環境性能だけではない MIRAI の商品魅力。

【塾生の感想】

『MIRAI 開発のお話を聞き、社会で働く大人の大変さを感じた。事業を成功へ導くための努力やコツを生で聞いたのは本当に素晴らしい刺激になったと思った。』

『印象に残った言葉があります。「リスクを取らないことが最大のリスク」という言葉です。この言葉は、車を作る事以外でも当てはまる言葉だと思ったからです。』

『水素で走る車がどのような過程を経て開発され、製品となったのか詳しく分かりました。実物も見せていただいて、実物の迫力は想像以上にすごかったです。このような世界に誇れて、世界に自信を持って提供できる物が日本にある事は素晴らしいことだと感じました。』

6. チームミーティング

課題1. レインストーム～音をつくりだそう～

実施日 8月8日(2日目)

担当 音楽サポーター 石松千咲、大宅穂香

一つ目の課題として毎年恒例の課題、五線の楽譜ではなく記号や絵で楽譜を作り、ボディーパーカッションや身近な音素材を利用してストーリー性のある作品づくりをグループごとに行った。

音探しから楽譜づくりまでを1時間でするのは大変難しいことだが、チームで協力し、サポーターの協力のもと、全チームが完成させることができた。

今年は夏を題材にしたものが多く、「海」「湘南～夏の一人旅」「四季」「山」「夏」などがあつた。ストーリーを展開する中で「花火」を取り上げたチームは何チームかあつたが、それぞれ音素材の使い方が違い、テーマは似ていても様々な視点から表現方法を見ることができた。また今年度はどのチームも1時間という時間の中で、音探し、楽譜作りと時間配分が大変よくできており、各チーム一回ずつリハーサルの時間もとり、作品としても、まとまったものができていた。

塾生の感想では「短時間でいかに多くの意見を出しあって一番いいものを選べるかが大切だと学んだ」「短い時間を使って役割分担しながら進めていくことの難しさと面白さを知った」「チームの団結力が強くなった」「たくさんアイデアを出して、一つのものを作り上げた達成感があつた」などがあり、このミーティングで学んで欲しいこと以上のことを達成できたと思う。この時間をきっかけに、チーム意識が高くなり、この後から始まるディスカッションや次の難易度の高い課題に取り組むための基盤作りとなった。



【塾生の感想】

「チームで音を作り出すのを考えることが30分という短い時間ではきつかった。その30分という短い時間で終わらせるためには、今回のように楽譜を書く人と音を探して見つける人など、役割分担をして効率的に進めることが大切だと身に染みて感じた。他の班と波の音など重複している内容はあっても、使う道具が違って、音が班ごとに異なっていたのがおもしろかった。今回のチームミーティングで、短時間で計画的に物事を決めるコツも何となく分かったので良かった。」

「“夏”をテーマに沢山の音を皆で考えて奏でることができたのですごく楽しかった。賞はとれなかったけど、沢山のアイデアで一つのことをやり遂げることができたときの達成感はずごく気持ち良かった」

「ボディーパーカッションを考えたときには、完成までのプロセスを短時間で終わらせなければいけなかったのも、より一層団結力が求められ、その結果、初日にあったチームメイト同志の間の見えない壁がようやく完全に取払われたように感じました。」



課題2. 「チームCMをつくろう」

実施日 8月9日(3日目)

担当 事務局 櫻井宇多、宮城裕美

2つ目の課題は、今年で3回目となる「チームCM制作」。60秒間で、「私達のチームは、こんなチームです!」「こんなメンバーがいます!!」「私達の目標は〇〇です!」を表現する自己紹介CMを作る。

今年は、3泊4日の開催ということで、例年よりチームミーティングの時間が少なく、実施を迷っていた。朝のチームミーティングと合わせても確保できる時間は1時間半位。去年の制作過程を思い起こすとそのような短時間で制作し、完成させることは難しいだろうと、別の課題を検討しようと思っていた。しかし同窓会でのサポーター選抜の際に、卒業生達にヒアリングを行ったところ、「チームCM制作を行いたい」「実施方法を工夫したら時間内に作成することもできるのではないか」という声が多かったことから、実施できるようにCM制作の課題の内容を見直すこととした。

去年は、時間を多めに確保し、CMの内容に関する条件はなく、制作における時間配分も各チームに任せていた。その結果、時間配分を考えてなく内容がまとまらないまま撮影に入ったり、内容や演出に凝りすぎて色々な場所での撮影を行うことになり多くの時間を要するチームが多かった。その反省から、昨年、1番分かりやすくまとめられていて、撮影場所もコンパクトにし、早く完成させたチームを例にとり、制作にあたり様々な条件をつけることで、同課題を実施することにした。



制作スケジュールについては、

8/9 (3日目)	チームミーティング①	8:30~9:00	導入と説明、ラフ案
	チームミーティング②	11:00~12:00	企画書、絵コンテ制作・完成、撮影準備
	チームミーティング③	17:05~19:00	この間の15分で撮影を行う

条件として、

- ・編集は一切行わないこと。
※できるのはハンディビデオカメラのONとOFFで区切ったシーンを繋げることのみ。
- ・撮影は1か所で行うこと。
- ・チームミーティング③の15分で必ず撮影を終えること。
※この時間は、反省と発表会の準備を行うのがメインの時間であることから、撮影準備は一切行えない。
- ・上記の条件を満たし、与えられた時間で完成させることができる内容か、必ず事務局の担当者の企画書チェックを受け、OKがでたら絵コンテを作成し、撮影準備に入ること。

制作したCMは、卒塾式で上映、理事、事務局、サポーターが審査員となり、点数をつけ総合点が高かったチームを優勝とする。また、別途、絵コンテ賞を設ける。

いかにシンプルに表現し、見る人に伝えるか、企画力、構成力、そして何より力を合わせ短時間でまとめ完成させるチーム力が重要となる。

途中、企画書がやり直しとなる場合も考え早く提出するように、繰り返し呼び掛けた。また絵コンテ賞があるため、絵を書きこんでいたチームがあったが、絵コンテの審査のポイントは、絵が上手いことではなく、ストーリーと場面が、撮影者が分かりやすいように描けているかということも伝えた。

時間内に完成できるのか、不安もあったチームCM制作だが、どのチームも1時間で企画書、絵コンテを終わらせ、小道具などの準備も行い、撮影時間に間に合わせる事ができた。撮影は、少々手こずっていたチームもあったが、皆無事に終了し発表会の上映に完成させる事ができた。

完成したCMは、どのチームもよくできていたと思う。シンプルで分かりやすく、カメラの画面も工夫して使われており、中には1カットで撮影したチームもあった。

完成したCMは、卒塾式の冒頭で上映を行い、理事、事務局、サポーターによる審査で映像賞を決定した。もう1つコンテ賞も選ぶ予定だったが、映像、コンテと共に、1位、2位が同じだったことから、CM大賞1位、2位に変更した。やはり分かりやすいコンテを作っていたチームが、完成度の高いCMを作ることができるということだろう。まだ出会って2日程しかたっていないメンバーで、協力し、難易度の高い課題に取り組み、達成させたことには驚くとともに感動を覚えた。どのチームも「このチームにしかできないCMができた」と賞にかかわらず自分達の作品に



満足し、そして他のチームに拍手を送っていた。きらめき未来塾の理念である「共生」の大切さを学んでくれたのではないだろうか。

今後について

昨年は、課題に取り組む時間の少なさや事務局スタッフやサポーターの負担の多さが反省点となったが、限られた中でも課題の設定と指導の仕方によって、塾生達はそれに応える能力があることがわかった。どのチームも「与えられた時間内で仕上げること」「与えられた条件の中でできること」が重要であることを理解していた。今回はそのことを塾生に教えられたように思う。また、事前にサポーターから意見を聞いたことで、実践に即した形で実施することができた。

今後は塾生の感想や、サポーターの声も積極的に取り入れることで、塾生達が積極的に取り組める、より中身のある課題設定をしていきたい。

【塾生の感想】

「全員が同じ方向を向くことの大事さと、向かすことの難しさを学んだ」

「監督（役の生徒）のこだわりを色々と実現できるように、いくつかの案を出したり思いついたことを言っていた絵やシーンを沢山つくることができたと思う。」

「チームでCMを考えましたが、メンバーの『もっとふざけていこうぜ！』という発言のおかげで真面目であまり魅力のなかったそれまでの案を面白くすることができて、彼がいなかったら進めなかった一歩だと思います。本当に気の許せる仲間だからこそできた演技などもあって、非常に充実したチームミーティングになったと思います。」

「CMをつくることは初めての試みだったし、1からつくる大変な作業だった。でも皆がやりたいことを出してくれたのでスムーズに作ることもできたし、短時間でより良いものをつくることができた。一人一人の意見を出してもらっただけでなく、その意見をどうまとめ、1つの形にしていくのが難しく、自分ができるようにすべきことだと思った。機械的ではなく楽しくできたことが一番良かったと思う。」

「チーム名の大切さ、影響の大きさをあらためて感じました。チーム名を考えるときは皆おとなしかったのに、次のディスカッションの時にはすでに気兼ねなく話せたのはチーム名があったから方向性が皆の中で決まったのだと思います。その結果が今回のCMだと思います。誰も最初あの状態から想像できなかったと思います。チームの振り返りをしている時にお互いの成長した部分や自分の成長した部分が見えてとても良かったです。同じ年位で影響し合えるなんて思ってもみませんでした。撮影の時はもっと自分もやり切れたのではないか、時間の使い方などまだまだ反省する所がありましたが、楽しくできていたのでそれが一番良かったです。」



7. ワールドカフェ

実施日 8月8日(2日目) 夕食時

コーディネート：事務局 宮原あけみ

毎年、夜のプログラムとして「キャリア形成」をテーマに、国内外で様々なキャリアを積む若者達を呼んで、パネルディスカッションやグループディスカッションを行ってきたが、今年は「ワールドカフェ」を実施した。

目的として、従来の未来塾はチーム単位での活動が多かったこと。また、本年は開始期間が短いことから、他チームのメンバーとの交流を持たせること。ワールドカフェの特徴を活かすため、講師、理事、事務局、サポーター含め未来塾の関係者全員参加することで、同世代のみならず、いろいろな世代、そして経験値を知る機会を得るものとした。

ワールドカフェとは

メンバーの組み合わせを変えながら、4~5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られる会話の手法である。

ワールドカフェは1995年にアニータ・ブラウンとデイビット・アイザックスによって始められた。2人がカリフォルニア州サンフランシスコ市の郊外にある自宅で、「知的資本のパイオニア」というテーマの会議を開催した時、開始までの間、コーヒーを飲みながら、雑談をしながら待ってもらったためいくつかの小さなテーブルを用意した。やがて参加者が集まってきて、前日の会議の内容がおしゃべりのテーマになり、模造紙に思い思いに落書きをしながら会話をしており、皆の会話がとてもいい感じだったので、開始時間になったが、そのまま会話を続けることにした。

しばらくすると参加者の一人が「他のテーブルでどのような話し合いが行われているか知りたいですね。各テーブル一人だけ残して、他の人は別のテーブルに移ってダイアログを続けませんか?」と提案し、皆が案に同意して、さらに話し合いが続けられた。

やがて、話し合いを一時中断し、模造紙を床に置いて皆でその周りに集まると、中央から何かのパターンが浮かびあがってくるような不思議な感覚が得られた。

その後、会議に参加した人々が、それぞれの場所で同じような会議の進め方を実践するようになり、ワールドカフェが普及していった。

こうしてワールドカフェが誕生したのだが、それはまさに、コーヒープレイクの時間がもたらす「カフェ」のようなリラックスした環境での会話を、会議そのものの運営に生かそうとするという発想だった。

その名が示すようにカフェのリラックスした肩の凝らない雰囲気ができやすいことから、プロジェクトやチームの、様々な利害関係者の新しい関係作りを進めていきたい場合などに使われることも多い。

特徴として、

- ・少人数での対話なので、意見を言いやすい
⇒一度で多数の意見を聞くことが可能



- ・様々な意見や立場の人を参加者とする
- ・模造紙にいたずら書きをしながら対話する
- ・メンバーの組み合わせを変えることにより、アイデアの「他花受粉」を促す
- ・結論を出すことを目的とはしない。皆で発見したことや、各自の気づきを収穫する。
ということが挙げられる。

実施概要は以下のとおり

テーマ : 「あなたにとって、オリンピックとは何か」

グループ分け : 8グループ (1チーム7人前後)

*チームメイト、理事、事務局、サポーターの人数が偏らないよう配慮し、
ランダムにグループ分けを実施

タイムスケジュール: ディスカッション 15分 (自己紹介含む)

発表及移動 10分

2クール

*2クール目はじゃんけんして負けた人が移動する形式

ファシリテーター

五十嵐 正樹 一般社団法人・学習評価研究所 代表理事。親業訓練協会インストラクター。
学校・幼稚園・塾などにて、講座や講演会を実施。

高岸 佳以 2011年度卒塾生、2012年支援活動に参加、
現在は、大学で看護を勉強中。将来は助産師を目指している。

武 宏美 2007卒塾生、サポーター経験2回、関西大学卒業
現在は、堺市にある阪南病院で臨床心理士(カウンセラー)として勤務

櫃本 紗代 2007卒塾生、同窓会実行委員、 関西学院大学経済学部卒業、現在は大阪市内
の弁護士法人に事務職員として勤務

村松 知明 東京大学卒業。大学でキャリア教育プログラムを創設し、600人規模の大学生・
社会人の交流会を主催する。
現在、三菱商事勤務。中国の不動産事業の立上げを行い、数百億円規模の事業
投資に携わる。

吉岡 奏恵 2012年卒塾生、同窓会実行委員長関西学院大学 法学部 3回生

若杉 昌哉 大学生の時2回サポーター参加。
ニュージーランドで高校卒業。カルフォルニア州で準学士号取得。マサチュー
セッツ州にて学士号と修士号取得。2013年にニューヨークの監査法人に入社。

山内 美貴 サポーター
2011年度卒塾生。現在 岡山理科大学 応用数学科 3回生

ディスカッションのテーマは、2020年、塾生は20歳前後で何が貢献できるか考えるヒントとするため「あなたにとって、オリンピックとは何か」とした。

今回は、カフェのスタイルで（食事や飲み物をととりながら）形式ばらず、色々な意見を気軽に発言することを目指し、夕食を兼ね実施した。

しかし、ドリンク程度であれば会話が進むが、食事を摂りつつの会話は、集中ができないことから食事の時間を急遽設けたため、当初予定していた3クールから、2クールに終わってしまった。もう1クール実施したかったとのコメントがあることから、次回からはディertimeなどの時間帯で実施することで、時間を有効活用できるものと思われる。塾生の感想からも、いろいろな意見を聞いた。また、ラフに発言できたとのコメントが多くあり当初の目的は達せられた。

事実、理事からは1964年の東京オリンピックの思い出についてのコメントがあったり、他のチームの発表や、新たな参加者がもたらした情報から話題が膨らんだ。話題が膨らむことは良いが、テーマからそれる可能性があることから、ファシリテーターを設け、導くとともに、発言者が偏らないよう

依頼した。昨年までのプログラムの流れからファシリテーターの人選については、卒塾生を中心とした、様々なキャリアを積む社会人、大学生とした。

一方、理事長からはディスカッションの時間が少ないとのコメントがあった。このコメントについて、1つのテーマを深く掘り下げるカリキュラムを別に設定してもよいのではないかと思う。

通常の講義では、サポートする役割のサポーター、事務局メンバーもディスカッションに参加したことで、参加した実感ももて、有意義であったとのコメントがあり、自身が主役となり参加することで、未来塾について検討できるものになったと思われる。

さらには、同窓会から参加を募り、3名が駆けつけ参加してくれた。残念ながら、細見講師には参加の意向があったが参加いただけなかったが、木川講師は講義前日にカフェに参加したことで、塾生の様子がわかったと、講師からも好評であった。

なお、ワールドカフェを知っている、また、経験したことがある人がいないことから、サポーターの事前研修で実施した。参加したサポーターに意見を聞いた所、高校生が実施することについて難しくはないというコメントが多く、初対面のサポーター同志でも会話が弾み、サポーター研修にとっても有意義な時間となっていた。テーマ設定にあたっては、サポーター研修時「ワールドカフェのテーマは何かいいか？」をテーマにディスカッションを行い、このテーマに設定した。



ファシリテーターの感想

高岸佳以

ワールドカフェでは、塾生同士がお互いの意見に耳を傾け、聞き入れる様子が見られた。塾生にとっては、貴重な経験になったのではないかと思う。



武 宏美

初めてワールドカフェに参加させて頂きましたが、まず塾生の皆さんの柔軟な発想に驚きました。活発なブレインストーミングの輪の中にいる時間が楽しくて、タイムキーパーの役割をつい忘れるぐらい聞き入ってしまいました。

また、皆さんが独りよがりにならずに、みんなで一つのことを一緒に考えられることが素晴らしいなあと感じたので、これからもその姿勢を大事にしてほしいと思います。



櫃本紗代

ワールドカフェは、テーマが難しくなく、気軽に発言できるので、和気藹々とした雰囲気が進めることができ、互いに知りあって間もない塾生同士の親交を深める役割を果たせると思います。今後も、未来塾のプログラムの（できれば早めの日程に）中に入れる価値のあるものだと私は感じています。

加えて、わたしが素敵だなと思ったのが、大学生サポーターやファシリテーターが、会場や食事の準備をしたり、話合いの際に発言の少ない塾生に話を振ったりしているのを見た塾生が、同じように動いていたことです。塾生の皆さんはスタッフのことをよく見て学んでいますし、スタッフは塾生の良い先輩になれています。これからも、この未来塾の良い伝統を後輩たちに受け継いでいって欲しいと願っています。

濱口あかね

年々未来塾は変わっていきますね。ワールドカフェでは、テーマについて自由に発言していくという機会はなかなかないので、緊張している塾生も多く見られました。思っていることをうまく話せなかった、何を言えばいいのかわからないまま終わってしまった人もいるのではないのでしょうか。でもこのことを失敗したとは思わずに、皆さんが今後未経験のものと同じ向き合う時に少しずつ活かしてもらえたらいいなと思います。今回参加してくれた皆さんのこれからの楽しみです。

【塾生の感想】

『普段の学校での話し合いのような場では、なかなか自分の考えや意見などを言えなかったのですが、このワールドカフェではみなさんが自分の考えなどを真剣にきいて下さったので、とても言いやすかったし、人の考えを聞くのもとても勉強になりました。とても楽しかったです。』

『ラフな状態での会話は緊張せずにありのまますを発せました。集中したディベートでは、思いつきをなかなか言えないけれど、今回はペラペラと喋っていました。できれば3回目もやりたかった！』

『ワールドカフェが始まって、最初はちゃんと話ができるかが不安だったけど、テーマがオリンピックということで皆が平等に意見交換できるものだったので安心しました。』

最初のグループではオリンピックを一般的な感じ（具体的なオリンピックではなく）で話して、見ていてエネルギーをもらえる、選手たちと共に生きる、平和の象徴などという話がでた。

次のグループでは主に 2020 に開催される東京オリンピックについての話をした。日本に来る外国の人とどう接するかについて話をした。このオリンピックがどのような影響を日本に与えるか、開催が決まった時の心情などについて話し合った。

メンバーがほんの数人変わるだけで全く違う内容の話になったので面白かったです。』

『「あなたにとって、オリンピックとは？」という題から、“オリンピック”について沢山のひとと話しました。たった1つの“オリンピック”という単語から、

- ・自分の夢へのチャンスについて
 - ・オリンピックのはじまりである古代ギリシャについて
 - ・メダルの個数は選手たちのプレッシャーにつながるのではないか
 - ・日本は選手たちのサポートが十分にできているのか
- などなど、たくさん話題に広がり、とても楽しかったです。』

『グループごとの議題やまとめは全然違うが、全ての発表を見ると何かまとまりのあるように思えてきてすごいと思った。

全て終わった後、もう一度議題について考えると、始まった時にはなかった新しい視点があり、びっくりした。』

『いつものチームの人たちだけでなく、他のチームの人とも合流することで、違う意見を知ることができてよかった。2度のセッションを行うことで、1回目は表面上の皆が思うオリンピックを考えられ2回目はそれをもっと深めて意見交換することができた。(3回目もやりたかった。)最近、ニュースでもよく見る東京オリンピックなどの問題や政治上の偏見などの問題も高校生が思う姿だけでなく、ファシリテーターの大学生や事務局の大人の人など、色々な年代にわたる人たちの意見をきくこともよかった。自分の意見を発言することによって、他人と共有し深められる。その深めたことをまた深める。その繰り返しができることでよりよい意見にできた。一人の力だけでなく、皆の力でこんなにも良い話し合いができるんだなと感動した。』

『ワールドカフェで結論を出さなくていいという新しい形で気軽に意見を交換できて楽しかったです。人の意見を否定してはいけないというルールも何を言っても書いてもいいという安心感があって話しやすい雰囲気でした。

オリンピックとは何か？と普段はあまり考えないけど身近なテーマでいざ深くほり下げようとなると難しかったです。また、私達の班ではオリンピックのマイナス面が多くでてきて改善しなければいけない点が多くありました。国の政治力や外交の力がスポーツマンシップにのっかって真剣に競技をしている人々に関係してしまい、改善して、よりよいオリンピックになってほしいと思いました。』

『東京オリンピックの開催などがあり、オリンピックについて様々な意見を交流することができた。一人ひとりがオリンピックについて思うことが違い、なるほどと納得するような意見も多くあっておもしろかった。また、テーマ以外のことでも意見を交流できたり、自己紹介の延長で中学校のことや部活のことや学校生活なども交流することができたのでよかった。』

『「批判なし」ということで、あらゆることを批判しがちな自分にはどうかと思ったけど、「オリンピックとは何か」という1つのテーマから自分の視点では気づかなかった色々な意見が出たので、とても楽しく興味深い意見交換ができた。欲を言えば、もう1回メンバーチェンジして話し合いたかった。』

『たくさんの人と意見交換できた。一つのテーマで色々な意見、アイデアがでて驚きの連続だった。「オリンピック」から今日の講義でもでてきた「リベラル・アーツ」に繋がったのはすごいと思った。楽しかった!!学校の友達とかにもこの方法が伝えられたらいいと思う。』

8. コミュニケーションづくりについて

アイスブレイキング

実施 8月7日(1日目)バス移動中

担当 レクリエーションサポーター：宮地賢和、野村奈央、山崎友也

音楽サポーター：石松千咲、大宅穂香

今年は、塾生は会場に現地集合ということで計画を進めていたが、主要駅からのアクセスが不便であるため、名古屋駅集合とし、バスで研修会場へ向かうこととなった。

始めて全員が同じバスということで、これまでは参加人数が多かったことから2台のバスにレクリエーションと音楽をアイスブレイキングを行うこととなった。

今年は例年より塾生数が少ないので心配だったが、名古屋駅で早めに集合して交流があった塾生、盛り上げ役のサポーターのおかげで活気がでた。リズムをとりながら自己紹介をするレクリエーションで、声を張り、全体を盛り上げてくれた塾生もいて、楽しくまた緊張をほぐす雰囲気でも会場に向かうことが出来た。

3日目の交流会に向けて、合唱と手話歌の練習も行った。声は良く出ていたが、塾生にとって手話は馴染みがなく、しかも名古屋から会場までの移動時間が短かったため、バス内で覚えることは難しいようだった。手話に興味を持ち、「成り立ちを知れて良かった」「しっかり覚えたい」「もっと知りたい」等の感想が多く見られた。最初のアイスブレイキングの段階から「学び」の体制になっていることに少々驚いた。

カリキュラムは1つ1つの意味と与える効果をよく考えて構成していきたい。

【塾生の感想】

「手話でGREENのキセキをバスの中で学んだことが一番印象に残っています。まず、手話で歌うことも知らなかったし、その発想すら無かったので、早速きらめき未来塾で新たなことを学べた」

「皆なごやかな雰囲気で取り組むことができ、自然と緊張がほぐれました。音楽を通しては、人々との一体感を得ることが出来た。」

「全然話したこともない人ばかりで32人+サポーターさんが集まったけど、レクや音楽を通して少し打ち解けられたし、話しかけやすくなり、名前も覚えられたので良かったと思います。」

「いきなりの自己紹介には驚きました。でもそれによって塾の雰囲気がわかりました。手話は完全には覚えきれていないので、こまめに復習しようと思います。」



実施 8月7日(1日目)夜

担当 進行 事務局 櫻井宇多

アイスブレイキング：レクリエーションサポーター 野村奈央

初日の夜は、オリエンテーションを行う。入塾式を終えて、早速講義が始まるので、ここで一旦、腰を落ち着かせて次の日からのカリキュラムに備えてほしい。

内容は、

1. 事務局長挨拶
2. 事務局、サポーター紹介
3. 塾生心得、ディスカッション、夜の課題について
4. 質問シート、名刺について
5. チームミーティング(自己紹介、チームリーダー、チーム名決め)
6. アイスブレイキング(全体で自己紹介ゲーム)

例年通りのプログラムだが、最後のアイスブレイキングは、全体で交流できる「自己紹介ゲーム」を毎年工夫して行っている。

塾生心得は、きらめき未来塾の塾生として、どのような心構えで合宿生活を行い、学んでほしいかを主に話した。ディスカッションについては「全員が発言の機会を持つこと」「一人ひとりの発言にしっかりと耳を傾け、異見を尊重すること」そうすることによって「チームメンバーと学習を深め合う」ことが大事だと伝えている。「ここで学ぶ上で大切なことは、1つの結論を出すことではない」このことは、ファシリテーターとして参加して下さっていたキャリア教育のプログラム提供を行っている村松知明さん(三菱商事勤務)からも話があったことにより、塾生達の心にしっかりと刻まれたようだ。様々なカリキュラムの中でディスカッション、チームミーティング等意見を述べ合う時間を特に大事にし、そこから最も大きな刺激を受けていたことが感想からうかがえた。

名刺は、塾生は32名だったことから、最終日までに全員に名刺を配ること。即ち全員と会話することを課題とした。毎年テーマにしている「チーム内だけではなく、参加した塾生全員で輪をつくること」。実践できる人数なので、レクリエーション、ワールドカフェでチームシャッフルを行いその機会を工夫した。全体的におとなしい生徒達であったため、この試みが上手くいっているのか分かりづらかったが、交流を楽しんでいるようだった。



5の自己紹介の時間では、食事の時間も挟んで交流ができていたためか、楽しい雰囲気の中で課題の「自分のキャッチコピー」を発表していた。新たな発見があるなど、どのチームからも皆笑い声が聞こえていた。

チーム名については、趣向を凝らした様々なアイデアが挙がっていた。「AAA(トリプルエー)」など過去の未来塾で考えられたチーム名と同じチーム名も出てきたが、Aの持つ意味が違って面白く感じた。毎年、時間内に決まらず、朝の発表時にやっつけ仕事の的に決めてしまうチームがあるのだが、全チーム時間以内に決まっており、格好良く、しっかりと意味が込められたチーム名が付けられていた。そのためか、今年は皆チーム名に込められた目標を常に意識しカリキュ

ラムに臨んでいたように感じられた。当初から行ってきた課題だが、改めて「チーム名」の持つ意味の重さを実感した。

6のアイスブレイキングの時間には、レク担当のサポーターが2つのゲームを企画した。1つ目は「ネーム・チェーン」。自己紹介をしながら、制限時間3分で名前の五十音順に円形に並ぶというもの。ツールとして名刺を使うように伝えたのだが、名刺交換に必死になってしまい、時間が押してしまった。チェーンを作ることがゲームの目的ということを最初にしっかりと説明すべきだった。

2つ目のゲームは「私は誰でしょうゲーム」。紙に有名人やキャラクターの名前を書き、隣の人の背中に貼る。沢山の人に質問しヒントをもらい、背中に書かれてある名前を当てるゲームだ。こういう類のゲームは、高校生達の流行や好きなものを知ることができる。最後は、2人が名前を当てることが出来ず残ってしまった。そのうちの1人の背中に貼られた名前はほとんどの塾生が名前を知らなかった人物だった。書いた本人は全くそんなつもりはなかったようだ。

アイスブレイキングの時間は、塾生同士がコミュニケーションを図り、これから共に生活し学ぶ基盤をつくる大事な時間であるとともに、事務局、サポーターにとっては塾生の個性が観察できる機会である。

【塾生の感想～これから4日間学ぶ意気込みを聞かせてください】

「これから行われる4日間の講義や新しい友との出会いから、新しい価値観や今までにない考え方を受動的にではなく、自ら積極的に取り入れようと思う。」

「まだ沢山講義はあるので一つでも多くのことを学びたいと思った。それに話せてない人達が多くいるので塾全体のチームワークを深めていきたい。」

「色々な高校の生徒がいる中で、自分の意見をしっかりと持って堂々と言えることは大変なことだと思う。でもこの4日間を充実して過ごせるよう、常に積極的に臨もうと思う。」

「全国から様々な考えを持つ高校生が集まってきているこの状況を最大限に活かして、講義やその後のディスカッションで聞いた他人の意見や考えを取り入れ、自分の今までの考えを見直すいい機会にしようと思います。また、ディスカッションでは有意義な議論を交わし、ディスカッションでしか辿りつけないような答えを皆で探究していきたいです。」



朝の体操

実施 8月8日9日10日(2~3日目)朝

担当 レクリエーションサポーター：宮地賢和、野村奈央、山崎友也

朝食前に体操やレクリエーションを行い、頭を使い、声を出し、体全体を動かすことで、しっかり目と頭を覚まし、一日のリズムを作る。また、バス内に引き続き、手話歌の練習を行った。

今年は、宿泊部屋と体操を行う広場が近く、また寝坊等で集合に遅れてくるチームもなく、時間よりも早く始めることができ、その後のスケジュールもスムーズに行うことができた。

今回は全員が同じ場所で宿泊できたため、理事、事務局メンバーもほとんどが参加したため、事務局チームとして参加したり、塾生とペアになるなどして、交流を楽しんだ。

ベテランの宮地サポーターリーダーと、初参加のサポーター2人で担当してもらった。初めてレクを担当する2人には最初は流れを覚えてもらい、3日目、4日目は役割分担をして行うという形を取り、初担当の2人は前日の夜必死に予習を行っていた。

今年は日数が少ないので、最終日の朝も体操を行うこととしたが、塾生も疲れが出てきており、特にサポーターの負担が大きかったようなので、やはり最終日の朝は各自、部屋片付けの時間として、少しゆっくり起きて、午前の講義と卒塾式にのぞめるコンディションを整えられるようにするべきだった。



交流会

実施 8月9日(3日目)夜

担当 レクリエーションサポーター：宮地賢和、野村奈央、山崎友也
音楽サポーター：石松千咲、大宅穂香

最終日の夜は交流会を行った。夕食ではバーベキュー。その後、ゲームや合唱等で楽しい夜となった。

バーベキューでは、話したことがない塾生同志で席が近くなり、全体で交流し楽しい時間を過ごせていたようだ。しかし、食べ終わったあたりから、写真を撮る時間のようになってしまう、食べることや今まで交流の薄かった塾生と話すという大切な時間が減り、肉や差し入れのスイカなどが大量に余ってしまった。さらにサポーターも気が緩み、移動するがスムーズにいかなかったため、しっかり切り替えを行いスケジュール運営を行ってほしい。事務局も交流会はサポータ

一に任せきりになってしまったので反省しなければならない。

今年の会場はキャンプファイヤーの設備がなかったことから、室内で交流会を行うことになった。音楽レク担当者、レク担当者で今までの流れをベースに組み立てをしてもらったが、キャンプファイヤーがないということで、ゲームの内容を考えるのに苦労していたようで、確定したのは前日だったが、どのサポーターも積極的に参加して盛り上げていた。

全体的におとなしい塾生達であったため、最初は恥ずかしがっているようだったが、ゲームを進めるにつれ、皆笑顔で、体を動かしたり、声を出すようになっていき、「あまり話せてなかった人とも仲良くなれた」「もっと皆と一緒にいたいと思った」との感想があり、心から楽しんでいた様子が伺える。

キャンプファイヤーがないとやはり思い出作りに欠ける感があることは否めないが、歌やゲームで塾生やサポーター、事務局が一体となり自然的に一つになれる事は本当に素晴らしいと思う。

塾生の感想】

「色々な人と体を使ってゲームをして、ちょっと難しい所もあったけど、ずっと笑顔が絶えなかったのが、今日一日で一番心に残りました。」

「3日間を共に過ごした仲間と最後の夜を惜しみながら、皆で合唱したり音楽にあわせて体を動かしたり、ゲームをしたりと、最終日も精一杯楽しみ学ぼうという気持ちを互いに確認し合いました。」



合唱

担当 音楽サポーター：石松千咲、大宅穂香

今年も昨年度と同様の「Believe」と「風になりたい」を選曲した。キャンプファイヤーが行われないことから、合唱をどう活かそうかという思いもあったが、コミュニケーションツールとしての合唱は重要であり、そしてやっぱり交流会の最後は合唱で締めくりたいと思った。

「Believe」は小学校や中学校でなじみのある曲であるとともに、「共生」をテーマにした歌詞で仲間とのつながりや未来を信じて進む力を歌っているのが、このきらめき未来塾にリンクするところが沢山ある。

「風になりたい」は、交流会を盛り上げ、またサンバのリズムのボディーパーカッションに入ること、全グループが一つになることができるため選曲している。

そしてもう1曲、手話とあわせてGReeeeenのキセキを初日のバス移動、朝の体操やチームミーティングでも練習を行った。手話は覚えるのが大変そうだったが、歌はどれも最初から大きな声を出して歌えていた。

初日の塾生の感想で「全員で同じ歌を歌うことでバスの中に一体感が生まれ、音楽には人と人を結びつける不思議な力があるんだと改めて実感しました。」とあった。そして交流会の最後、輪になって声を揃えて歌う塾生達を思いおこすと、やはりコミュニケーションツールとしての合唱、心を繋ぐことのできる音楽の力を感じずにはいられない。



今後について

きらめき未来塾はチームでの活動を基本とし、チームメイトとの絆を育むことはこれ以上なく大切である。

今回の未来塾は4日間と昨年より1日短くなったことで、アイスブレイキングやチームミーティングの時間が少なくなったことで、塾生同士のコミュニケーション作りという点においては心配していたのだが、ディスカッションや課題に取り組む様子、また感想を見る限り、その心配が杞憂であったと思われる。

しかし、サポーターからは、「お互いを牽制しあい、探り合っている、そんな雰囲気があった」「卒塾式で名残惜しさのようなものが生徒からあまり感じられなかった」との報告もあった。

確かに感動や情熱のようなものがこれまでより、薄いと感じられる面が多々あったが、感想文からは感動していた様子も伺える。大人しくシャイなイメージの今年の塾生達だが、これも時代の変化、環境の変化における子ども達の変化なのかもしれない。

高度情報化社会によりメール、SNSによるコミュニケーションが浸透する中で、実際に顔を合わせて声を出してコミュニケーションをとることを苦手とする子どもが多いのではないだろうか。そのような塾生が集まった場合、より円滑なチームビルディングを行うための工夫が必要となってくる。例えば、学校行事や参加地域の関係でなかなか実現が難しいと思うが、チームミーティングを未来塾開始前に行えば、チームができた状態で未来塾に参加することができる。

リーダーの必須条件であるコミュニケーション能力。少子化、核家族化、進む情報化社会、子ども達を取り巻く状況が変化する中で、このことをより重要な課題を捉え、カリキュラムを設定していきたい。



9. 発表会

全てのカリキュラムが終了した後、講義 1 で織田講師に学んだ「アフメーション」という形で、自分の夢についての発表を行う。

例年は、各チームで発表会を行い、そこで選ばれた代表 3 名が卒塾式で、全員の前で発表を行うという形で実施していたが、今年は 32 名という少人数であったことから全員が卒塾式で発表を行うこととした。

アフメーションは、卒塾式前日のチームミーティングで、それまでの学習を振り返りながら作成する。例年「書けない」という生徒がでてくるのだが、ほとんどの塾生がしっかりと夢、目標を持っており、講義で学んだこと、仲間と語り合ったことで、より確固たるものとなって書き表されていた。

従来は個人の振り返り、アフメーション作成、チームでの振り返り、チーム発表会、代表選抜と、時間が足りなくなるチームがあった。しかし今年はチーム発表、代表選抜を行わないため、時間に余裕があり、学んだこと、得たもの、そしてチーム名に込められた目標が達成できたかをしっかりと振り返ることができただろう。

発表会では、初めは大人しく消極的だった塾生達が、一人ひとりステージの上で発表する姿は、見違えるように堂々としており、地域、日本、そして世界のために働きたいという強い意志を感じ取ることができた。

共に学んだ仲間達の前でアフメーション発表をすることは、夢、目標の実現に向けてのスタートラインとなったことだろう。



【塾生の感想】

『決意表明をした時、皆の顔がすごく生き生きとしていて、夢や目標を持つことは良い事だと改めて思いました。卒塾証書を塾長から受け取った時は、4 日間が終了してしまうのを寂しく思いましたが、沢山の人の出会えて、自分を成長させることができ、本当にきらめき未来塾に参加して良かったと心から思っています。』

『4 日間を通して確信した自分の夢を皆の前で発表しました。あんなに多くの人前で語った《アナウンサーになる》という夢。どんなに難しい道でも、沢山の困難があっても、自分が満足するまでは諦めずに正面から自分の夢に向かって努力しようと決意しました。』

『自分のアフメーションを人前で発表したことによって、自分の未来像が具体的に想像することができ、夢で終わらすのではなく希望に変える気持ちを持つことができました。』

『各自がアフメーションを発表し、とても刺激的だった。1 人 1 人が個性ある夢、目標を持っていて、すばらしいと思った。夢を語り合うことができるという状況にあることを、まず感謝せねばならない。親、友人、先生、いろんな人のおかげで“私”という存在があるということを強く実感した。』

『この未来塾に参加して一番良かったと思ったのは、自分の目標を宣言することができたことです。今まで、自分の将来について考えることはあっても、何かに書いたり、誰かに向かって発表したりすることはほとんどありませんでした。きらめき未来塾を通して、自分の将来について再び考えることができ、そしてそれを宣言することができたのは本当に良かったと思います。』

10. 塾生について

募集について

今年は、全国から広く集めることを目標としたため、教育委員会による推薦枠を設けず、学校から直接応募してもらう形をとった。結果、これまでで1番多くの地域からの参加があり、半分以上の都道府県の高校生がきらめき未来塾に参加したことになる。

また、「グローバル化した時代に即したカリキュラム設定」をテーマにしていることから、昨年度に引き続き、留学生の参加募集を行った。留学生と共に、生活し学ぶことによって、国の文化の違いから生まれる価値観の違いを知り、国際理解に役立ててほしいという趣旨からである。そのため、募集要項には留学生とコミュニケーションをとれる英語力を有していることが望ましいということを表記した。

その結果、今年も留学経験者、海外ボランティア、帰国子女など英語を得意とする生徒の応募が多かった。

留学生については、インターナショナルスクール、スーパーグローバル指定校等に案内を送ったが希望者は出ず、昨年参加した大阪の私立校にも声をかけたが、集合場所の名古屋まで生徒だけで行くのはハードルが高いようで、残念ながら留学生の参加はなかった。留学やホームステイを斡旋している団体と協働も視野にいていたが、今年は、塾生数を絞ったこともあり、実現しなかった。今後、留学生の塾生を定数集めるには、他団体と協力し参加募集を行うことが必要だろう。

本年の日程は、8/7(金)～10(月)と2011年以降のこととなったが久々のお盆前開催となった。応募状況を見ていると、夏休み後半となるお盆後の方が、やはり入塾希望者が多いように思える。より多くの生徒、留学生を集めるには開催時期も考慮する必要がある。



学習の様子

学習において、非常に熱心な塾生達だった。というのが今年の印象で、どのカリキュラムにも常に「学ぶ」姿勢で取り組んでいた。緊張をほぐすためのアイスブレイキングや、つい、ふざけた方向にいつてしまいがちなチームCM制作も真剣に取り組んでいて、「時間が足りない」「もっと～ができれば」等与えられた条件に文句を言わなかったのが印象的だった。課題の内容を理解し、またそれ以上の学びを得ていたことが感想からは伺えた。

今年の講義は、対話しながら進めていくもの、討論を行うもの、茶道研修、2人のペアで行い1対1の話合いによる意思決定を求めるロボット研修など、塾生達に発言を求め、体験する参加型のものを多く取り入れ、講話型の場合もディスカッションの時間を多く確保した。

また、初の試みである「ワールドカフェ」では、卒塾生を中心としたファシリテーター、理事、事務局、サポーターそして塾生、会場にいる全員をシャッフルしてチームに分け、オリンピックという1つのテーマについて、様々な角度から、異なった立場、年代から対等に話し合ってもらった。最初は戸惑っている様子の塾生達だったが、次第に会話が弾んでいき、「とても楽しかつ

た」「有意義だった」との感想が非常に多く、メンバーチェンジしてセッションを何回か行うのだが、時間の都合により2セッションで終わってしまったのだが、「もう1セッションしたかった」と残念がる声が多くあった。

ディスカッションすること、意見を出し合い協力すること、対話すること。これらの時間を特に大事にしていた塾生達。講師、サポーター、理事や事務局そして仲間達の発言にしっかりと耳を傾け、意見を持つ大切さを知り、また自らも発言する勇気を身につけた。これからも、その事を忘れず、様々な人と出会い、沢山のことを学び経験してほしい。



生活の様子

生活面においても塾生はチームでの行動が基本となる。参加者32名であったことから、5つのチームに分け、1チームの構成は6~7人とした。男子の人数が多く、女子が2名か3名の編成となった。2人しかいない女子の気が合わない場合、また女子3名のチームで1人が仲間外れになったことがあったので心配していたのだが、そのようなことは全くおこらなかった。

サポーターミーティングでの塾生やチームの様子を報告時、「他の子から浮いている」「騒ぎすぎて周りが戸惑っている」など注意する必要がある塾生はいたが、全て杞憂で、塾生間で些細なことはあったのかもしれないが、過去に何度かある、事務局やサポーターを巻きこんでの騒ぎがおこる、ホームシックになる、単独行動をするといった塾生が出ることもなく、どのチームも良い雰囲気ですべて4日間を終えることができた。

おとなしく、学習面、生活面においても真面目な印象の今年の塾生だったが、例年のように、「就寝時間後の出歩き」は、している塾生もいた。最終日の夜、それに気づいたサポーターが1回目の見回りの後、廊下で待機していたところ、こっそりと部屋から抜け出すところを抑えた。参加した先輩から、夜の見回りは1回しか来ないということを知っていたようだ。他にも色々と情報を入手して参加している生徒が多かったのだが、学校の先輩からはともかく、インターネットで情報を得たり、SNSによって参加前からネットワークができていたのには驚いた。話題に上がるのは嬉しいことだが、毎年参加する生徒は違うが、基本的ルールは徹底させると共に、常に変化し新しいものを取り入れていく必要性を感じた。とりあえず見回り体制を強化すべきだろう。

出歩きを防止するためには施設の造りも重要である。昨年までのウェルネスパークでは、宿泊棟が分散していたため、塾生達は夜中に他の部屋に遊びに行くことが困難だったが、今年のとどのひの丘では、塾生達の宿泊部屋は1フロアに収まり、見回りは楽ではあるが、塾生達も他の部屋に遊びに行くことが容易だったようだ。やはり倫理上の問題や事故などもしものことがあってはならないので、男子と女子の宿泊部屋を離すことができるような研修施設での実施が望ましい。



11. サポーターについて

サポーターの構成員は、社会人サポーター、レク、音楽担当サポーター、学生サポーターからなる。今年の学生サポーターは卒塾生サポーターと大学からのインターンである。

卒塾生サポーターは、3月に行った交流会で、募集案内を行ったところ、3名の立候補があり、同窓会実行委員メンバーと新たな3名で選考を行った。今年はサポーターの枠がが少なかったこともあり、早々に募集を締め切ったので、その後も問い合わせが何件があり、2日目実施のワールドカフェの参加を募ることとした。

選考は、同窓会実行委員で話し合いをしてもらい、サポーター経験豊富な大学3年1名とサポーター初参加となる3名に決定した。初参加の学生を多くした理由は、後進育成のためである。

大学生のインターンについては、昨年を引き続き、国際教養大学のご協力をいただいた。今年は鈴木学長にも講師として参加いただいた。講義報告の際にも述べたが、秋田県にある国際教養大学は、人材教育で注目されており大学ランキングでトップをとり高い就職率でも注目を集めている大学である。塾生達にとって、そのような学生達から学べることは多いだろう。大学側も学生達にとって有益な機会になると、積極的に学内で案内し、選抜して下さった。結果、とても優秀な2名の学生を昨年に引き続き派遣いただいた。

社会人サポーターは、協賛企業から2名、レク、音楽サポーターは、ベテランサポーターである現役教員である2名に来ていただくことになった。

ベテランのレク、音楽サポーターの2名には、サポーターのリーダーも務めてもらい、サポーターのまとめ役、塾生の指導に関するアドバイスやフォローを行ってもらおう。毎年、サポーター達の中でも社会人と学生、学生の中でも卒塾生とその他、ベテランと初参加など、分かれてしまう傾向にあったのだが、今年は全員がよくコミュニケーションをとり、1つのチームとして協力体制が取れていた。例年より少ない人数だったこともあるが、その中の学生、社会人、ベテラン、初参加の比率も上手くいっていたように思う。



今年は、塾生数が少ないことで、サポーターも5つのチームに2名を担当にして、10名、途中参加を加え11名と少ない人数となったが、3泊4日の中に、バラエティに富んだカリキュラムを盛り込んだため、メインの塾生のフォロー以外の仕事において、一人の担当する役割の分量が非常に多くなってしまった。

レク、音楽担当は、メイン担当のリーダーの2人のアシスタントとして、レクには2人、音楽には1人の学生サポーターをつけた。これは、後進育成の目的もある。

その他、講義の司会、PC操作、講師のアテンド、インタビュー、写真撮影等の役割が昨年は1~2回ずつ担当がまわってくる程度だったのに対し、5~6回も担当してもらわなくてはならなかった。また、講義会場の机、椅子のセッティングと片付けを全部自分達で行わなければならなかったことも、事務局、サポーター共に十分な休憩をとる間がほとんどなく、1日のカリキュラムが終わってから昼間できなかった片付け、そしてサポーターミーティングと、ハードなスケジュールになってしまった。サポーター達に体力的な負担が多かっただろうと、4~5日のカリキュラム運営に、休憩時間も確保できる位の十分な数の人材確保が必要であることを痛感した。また、スケジュール運営の際の協力が得られる研修施設を選定することも大切である。



そのような中でも、サポーター達は塾生達としっかりと向きあい、1番重要な役割である塾生の合宿生活と学習のフォロー役を担ってくれた。塾生からは、あるサポーターとの出会いに感銘を受け、勉強になったとの感想があった。念願の企業に就職し社会人として成長中であったり、大学で夢に向かって学んでいるサポーター達は、塾生にとって身近な講師である。



今後も、塾生達にとってより有益な出会いとなるようなサポーターに参加してもらえよう努めたい。それには、きらめき未来塾卒塾生向けのプログラムも充実させていき、同窓会と連携させる、そうすることによって相互に人材育成を行う体制やカリキュラム作りも視野にいれたい。



12. 塾生の声～これからの目標

ふりかえりシート「未来塾で学んだことを、あなたのこれからの生活、学習または目標、将来の夢の実現のために、どのように役立てていきますか?」抜粋

『自分の意見を積極的に発言する事は、自分の考え方を深める事ができることが分かり、日々の生活でも自分の意見や考えを発信していきたいと思いました。』

自分の目標や夢は、書き出すことでより明確に現実になることを知りました。

自分の個を確立する為、自分の役割を見つける為、視野を広げることもふまえ、他人の意見も取り入れながらも、自分をしっかり持つことが大切だと思いました。落語や茶道など初めてだったのでとても貴重な体験でした。』

『私はいつも授業中あまり発言しない（する雰囲気でない）方だったのですが、未来塾では皆がたくさん発言したり質問したりしていたのでとても新鮮でした。自分の意見がたくさん言えて、嬉しいというか、スッキリした気分になりました。だから、普段の生活でも自分のいいたいことをきちんと伝えられるようにしたいと思います。』

世界のできごとを多くの視点から見ることの大切さを学びました。客観的に物事を見られるよう、多くの情報にふれていきたいです。』

『この塾を通じ、多くのことを学んだ。講義から直接的に学んだこととして、時に授業での積極的発言の重要性、目的に応じ手段が決まるという大前提の再確認、限られた情報の中でも判断しなくてはならないことなどが印象に残っている。日頃の学校生活、特に授業や生徒会活動において、こうした力を発揮していきたい。』

講義から間接的に学んだこともあった。講義で質問がでると、講師の方がそれに関連する話をしてくださり、より理解が深まる場面が多くあった。普段の授業においても同じことが言えると思うので、積極的発言を心がけたい。

さらに4日間、仲間とともに過ごしたことで得られた様々なことがあった。Cチームのメンバー1人1人に強い主体性、積極性があり、1人1人が司会やアイデアマンなどすべての役割をこなしていた。そんな中では、私自身のみが意見を述べることはさほど重要ではなく、相手の話をしっかり聞くことがより重要となっていた。学校での

グループワークでも1人1人の意見に、より耳を傾けるよう心がけたい』

『今回の未来塾では、初めて出会った人なのにも関わらず、自分の意見を本気でぶつけ合うことができたと思った。他の人の意見も興味深いものがとても多かったです。』

これらの経験は将来、自分が初めて出会った人とも話合える力を強くしてくれました。これから来るかもしれないいかなる困難な状況にも立ち向かう、より強い自分を作ってくれたと思いました。』



『今回、初めて他校の高校生と交流することができました。これまでは、全寮制の学校だったこともあり、俗に言う「井の中の蛙 大海を知らず」状態でした。きらめき未来塾で全国のやる気のある皆に出会えたことで、全国レベルの高さを意識させられたと共に、今後の成長への良い刺激になったと思います。

この未来塾であった数多くの討論の場では、普段の寮、学校とは違って、本気、全力で自分の意見をぶつけることができました。生まれて初めて議論するのが楽しく感じられました。

最後に、今回の未来塾で一番驚いた事が、こんなにも早く初対面の人となかよくでき、距離を縮めることができるということです。正直、入塾する前、周りの塾生と上手にやっていけるか、とても不安で仕方ありませんでした。しかし、そのような不安は必要ありませんでした。様々なレクリエーションで初日から打ち解けることができました。今後も積極性を忘れずチャレンジ!!』

『普段とはちがう新しい環境で様々なことを学んで、未来塾のみんなは1人1人色々な個性的な意見とか価値を持っているので自分の意見もはっきりと迷わずに伝えることができるようになりました。普段の生活に戻っても、戸惑わず自分の思うことを発信していきたいです。

また、夢の実現のための講義が私の中では1番ためになったと思います。私は、夢や目標を持っていて、それを文字におこし、計画を立てることもしていたけれど、実際に行動していなかったのではないかと、ということに気づくことができたのが本当に良かったと思うので、これを機に夢に向かって、行動できるようになって、5年後、10年後に今の自分が想像する憧れる自分になりたいです。』

『考えぬくことの大切さ、瞬間を懸命に生きること、議論の仕方、積極性、他の塾生との交流の中で自分を考えることなど貴重な経験をしました。学校の中や、大学に行っても授業の受け方などを変えていきたいです。このように4日間で成長したこと、学んだことを毎日思いだし、意識して過ごしていきたいです。柳澤講師から学んだ「今信じることを大切に懸命に進んでいきたいです。』



13. 保護者様の声（参加塾生父母アンケートより）

終了後、塾生の保護者にカリキュラム内容やお子さんの卒塾後の変化などに関するアンケートを実施。32名中21名の方にご解答いただいた。

1. お子さんから、当塾に参加された感想の報告を受けられましたか？また、そのことについてお子さんと話をされましたか？

① カリキュラムについて

- ・ 充実した講義だけではなく、参加者とのコミュニケーションがとれるカリキュラムで新しい友人ができたようです。
- ・ 起床からの食事、就寝までほぼ毎日同じ時間帯で設定されていたため、体調管理が容易だったようです。集団生活に不慣れな息子にとって、大変ありがたい時間割とカリキュラムだったと思います。
- ・ 様々なカリキュラムで構成されており、興味を持って取り組めたようです。特にチームでの議論にやりがいを感じたようです。
- ・ 講義だけでなく、チームミーティングやワールドカフェをカリキュラムに取り入れることで、ディスカッションをする機会が増えていて、とても充実したカリキュラムだと思います。
- ・ 当塾を終え、数日たった頃にカリキュラムの構成の意味が理解できたようです。参加前は朝の体操などイメージがつかなかったし、当塾ではいったい何をするのか？というのが第一印象でした。

② 講義について

- ・ 塾生たちが講義を通して新たなことを学び、また、ディスカッションを通して話す力、聞く力、思考力を高められる良い機会だったと思います。
- ・ 普段なら自分の興味のある分野しか受けないだろうが、幅広いジャンルの講義が受けられて有意義だったと思った。受け身だけでなくこちらから質問できるのも良かった。
- ・ ただ先生のお話を伺うのではなく、先生からの質問に答えたり、ディスカッションをしたり、体を動かしながら身に付けていくことの大切さを実感できたようです。
- ・ 講義の後のディスカッションでは自分にはない意見が沢山聞けて、何よりも皆が肯定的に聞くスタイルがよかった。自分の通う高校でも取り入れてほしいと言っていました。
- ・ 尊敬できる考え方に接し、日常生活に生かしていきたいと考えているようです。
- ・ 「世界が100人の村だったら」では、今まで何となく知ってはいても理解していなかった様々なことを教えてもらって考えたと聞きました。家でもさらに意見交換しました。

③ ミーティングについて

- ・ グループでの他の人に意見にはっとさせられたり、また、自分の考えを聞いてもらったり、時には英語を使ったりと、普段の高校での授業や生活とは違ったひと時を過ごすことが出来、実り多いものだったようです。
- ・ 自分の意見を相手に伝える、また他の意見を聞き深く考察することが大切と改めて感じた様です。
- ・ 随所にミーティングが用意してあり、チームの人と仲を深められたようです。同じチームだけでなく、他チームともミーティングが行われるとよかったなと話していました。
- ・ あらゆるものを用いて、1つの情景を表現する活動、またCMの制作をしたと聞きました。いずれもチームの協調性が問われるものであったため、娘は一生懸命取り組めたそうです。
- ・ 自分にはない他人のいろいろな気づきがあった。ミーティングによって、自分と相手、両方に得る物があったことは貴重な体験となりました。

2. 自分の進路や、自分の夢などに関して、何か話されていませんか？

- ・ 自分の夢や進路について、他の参加者が具体的に大学名や職業名を挙げていたことに驚いたようでした。本人は将来は国外でも適用するようなスキルを身に付けて仕事に結びつけたいようですが、具体的な職業の選択には至っていない様子です。
- ・ どの道に進んでも教養と人格を備えた人間になりたいとのことでした。
- ・ 具体的に文字にして書くことが重要だとのお話があったと申しておりました。目標を新たにしたいようです。また皆に会う時に恥ずかしくないようにしたいと思ったそうです。
- ・ 大学進学について、また将来について今までより高い理想を持つようになりました。海外に出てもっと知識を広げたいと話していました。

3. 進路や夢に関し、どのようなアドバイスをなされましたか。

- ・ 夢は夢として持つことはいい事だけれど、今回こんな機会をいただき自分自身でつかみ取るには、どうすべきかを話し合うことが出来た。せっかく自分を変えるチャンスを提供されたのでこれからの糧にしてほしい。
- ・ 夢を実現させるには何が必要なのか、自分でしっかり見て、聞いて、考えること。何にでも挑戦してみる。わからない事は先延ばしにしない。目先のことだけを見ずしっかり考えよう。アドバイスやフォローはできるが、やるのは自分！決めるのも自分！
- ・ 参加していた方々が皆はっきりとした目標を持っていることに触発され、自分も目標を定めて勉強をするのだと語るその口調が今までになく強いものであったので、「今のその気持ちを忘れずに悔いのないように。思い、決めないことは叶わない」とアドバイスしました。
- ・ 一緒に参加した友達は日本を引っ張っていくリーダーの卵達であり、これからも仲間として切磋琢磨するようアドバイスした。

4. 来年の開塾に関し、ご子息からの感想などを踏まえ、保護者の立場から当塾へのご意見、アドバイスをお願いします。

- ・ 「これまでの人生で最も楽しい 4 日間だった」という開口一番の感想に私自身驚きました。いろんな経験をさせてきたものですから。それ程までに素晴らしい企画をされている事に本当に心から感謝します、このような大変貴重な経験が出来、娘は幸せであると同時に多くの子供達が参加できればもっと良いのにも思いました。お世話になりありがとうございました。今後も娘がこの未来塾に何かの形でお手伝いできますように。
- ・ 大変貴重な体験をさせていただけたと感謝しております。サポーターの方々の存在が大きかったようです。また、自分から望んで参加していらっしゃる方々ばかりで過ごしたことが、日常の学校生活では得られない充実感があり、4 日間が一週間以上の内容だったそうです。
- ・ この度は息子に貴重な講義を受ける機会や、塾を通して全国から集まる参加者及びサポートの方々と貴重な触れ合いの場を作って頂いたことに大変感謝しております。今後も卒塾生として、サポーターとして、関わりを深めていって欲しいと思います。
- ・ 農・漁業・林業に関する講義がないのが残念だ。
- ・ 全国から同じ意識を持った者たちが集まる。その点だけでも意義深いと思います。その上、サポートして下さるスタッフや講師の方々のご尽力のお蔭で子ども達が一段とたくましく成長させて頂けたものと感謝しております、できれば今回で完結ではなく、更にステップアップしたカリキュラムがあれば、なお有難いと考えております。

14. 事務局総括 — 反省と次年度に向けて

塾生

本年の開始にあたり、従来と大きく異なったことは

- ・開催地の主要駅（JR名古屋駅）集合とした
- ・募集人数を30名に限定、推薦は1校1名とした

上記変更となったことにより、より選抜された塾生が参加した。しかし、毎年参加校からは複数生徒の参加要請が多かった。また、遠隔地から開催地である名古屋まで、一人で参加は問題がないことが判明した。

本年は開催期間が5日から4日間と1日の短縮となったこと。さらに開催地の主要駅集合であったことから従来バスの中で実施していたアイスブレイクの時間が十分にとれないこと。チームミーティングの時間も少なくなることで、塾生同士のコミュニケーションの面において懸念されたが、カリキュラムを通じ、チームとして溶け込んでおり、杞憂に終わった。

講師

ロボット実験、トヨタの最先端自動車開発など、なかなか体験できないカリキュラム構成となり、未来塾の特性が出せたものとなった。

未来塾の第一回目の広島での開催にあたり、講師からはできれば主要交通ターミナルからアクセスの良さを要望があり、懸念していたが概ね問題はなかった。しかし、夏季期間はどの講師も多忙であるため、参加いただけるよう配慮は必要である。

日程

施設の関係で、金曜日～月曜日という開催日程になったが、塾生にとって問題はないようであった。しかし、応募状況を考えると夏休みのまっただ中にあたるお盆直前の時期より、後半になる8月中～下旬に開催した方が参加し易いように思われる。

また昨年までの時期の日程で予定していた経験豊富なサポーターの日程調整が難しかったようだった。

会場

企業の研修施設であることから講義会場、設備、備品、宿泊施設、食事に至るまで最適であった。ただし、使用した施設備（机、椅子）を開始前の状況に戻すことが義務付けられており、会場セッティング含め、施設のスタッフの協力はえられず、塾生の手も借りて片付け等を行ったのだが、そのための時間を要してしまった。また、事務局、サポーターが小人数であったことから大きな負担となったことは否めない。

アクセスについて、主要駅からの交通の便が不便ということで、講師においては概ね問題がなかったようだが、見学者が少なかった。また初の試みとして1部講義を公開講座として、愛知県下の高校に参加募集を呼び掛けたのだが反応はほとんどなく、時期的な問題もあると思われるが、やはり最寄駅から遠く、車がないと行き難い会場であっては、そのような試みには不向きであった。

今回、愛知県豊田市での開催となったが、豊田を代表する企業の協力を得て、開催地の特性を

生かした、カリキュラムを構成することができた。今後は企業のみならず、地域全体、学校とのつながりを深める、また協働により、未来塾開催の誘致を各地からもらせるようにすることが、未来塾の特色となり、毎年新鮮なカリキュラムを提供できるものと思われる。

全体的

塾生の人数、期間はコンパクトとなったが、カリキュラム含め充実したものとなった。さらに、最終日のアフターセッションは全員が発表できたことは、各自にとって決意発表となり、未来塾参加の意義を最も持たせることができたと思う。

今後については、11年間合宿研修を実施してきたが、この固定概念を脱却し、最新の教育環境を取り入れていくことも必要であると思う。

また、述べ800人に上る卒塾生のネットワークや育成もより強化し、卒塾生の中から理事、事務局長が就任するようフォロー、育成していくことも必要でないだろうか。それが、きらめき未来塾が継続していくカギとなると思われる。



15. 事務局活動～きらめき未来塾 2015 関連

H25年 9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第一回企画委員会開催 (9/9) 開催日程、会場候補案について 当年度の重点研修課題及びカリキュラム骨子の設定講師候補の選定 ・第二回企画委員会 (10/7) 研修会場候補見学 開塾日程、塾生募集規模について カリキュラム案について 開催運営方式について
H26年 1月・2月	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会開催 (事業計画案、活動計画案) ・総会開催 (事業計画案、活動計画案 承認可決)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・きらめき未来塾OB会開催 (サポーター募集告知) ・企画委員会 研修会場候補見学 開塾日程、塾生募集規模について カリキュラム案 補正
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会開催 (事業計画補正案、活動計画補正案) ・臨時総会開催 (事業計画補正案、活動計画補正案 承認可決、カリキュラム決定) ・大阪府教育委員、兵庫県教育委員会、兵庫県庁訪問、京都府教育委員会訪問 (事務局) ・京都市教育委員会訪問 (事務局、理事長) ・後援、協賛依頼送付 ・エース損害保険 サポーター派遣依頼 ・レクリエーションサポーター、音楽サポーター、学生サポーター依頼開始 ・各企業等に協賛、寄付依頼状送付 ・名古屋校長会にて説明 (理事長、松浦理事) ・事務局打合せ (カリキュラム、サポーター、塾生募集 等について)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生募集開始 (25日～) ・事務局 研修会場 つどいの丘 視察 (15日) 大阪・東京事務局打合せ、施設担当者打合せ、 講師 (茶道研修、ロボット実習) 打合せ ・事務局打合せ (サポーター募集、合同研修会内容 等について)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生募集締め切り (~1日) ・社会人サポーター確定 ・運営マニュアルの作成、合同研修会準備 ・事務局打合せ (事務局役割分担、資料作成、オリエンテーション 等について)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・塾生確定 (入塾証発送、学校教育委員会へ連絡) ・各講師資料の手配、準備 ・塾生、サポーターへの配付物、テキスト作成 ・同窓会実行委員会 (4日 きらめき未来塾サポーター派遣について) ・事務局、サポーター合同研修会開催 (18日 於ドリームテコンドースクール2階会議室) ・事務局打合せ (チームミーティング、ワールドカフェ、実習等について) ・参加塾生、参加高校、後援各位へテキスト等 案内発送
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・会場への詳細連絡 (人数、会場等) ・事務局打合せ (カリキュラム、資料、備品等、最終確認) ・きらめき未来塾 2015 ゴルフ大会準備、案内発送
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会 (9/19 きらめき未来塾 2015 ゴルフ大会について) ・報告書、DVD 等作成 ・事務局打合せ (ゴルフ大会などについて)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・きらめき未来塾 2015 ゴルフ大会 (4/10 読売カントリークラブ) ・DVD 完成、塾生宛発送 ・大阪事務局反省会、東京事務局反省会
11～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成

**次世代を担う
高校生のために**

「きらめき未来塾 2015」愛知県豊田市で開催

INFORUM

広告



○ホームページ
<http://kiramekimiraijuku.jp>

これからの日本を支えるリーダーの育成を目的に、「きらめき未来塾 2015」次世代を担う高校生のために、今年も開催されます。

今年は会場を移し、愛知県豊田市の全トヨタ労働研修センター「つどいの丘」において、8月7日(金)～10日(月)の全国の高校生を対象に開催。30名が参加します。この事業はアフラック創業者の大竹美喜氏を名誉塾長に、認定NPO法人きらめき未来塾理事長 水野彌一・京都大学アメリカンフットボール部前監督の主権により実施されます。

国際社会、日本、地域社会で活躍する有能な人材の育成、将来的に日本を支えるリーダーの育成を基本理念とし、講義を始め、ディスカッションや体験学習、レクリエーションなどさまざまなカリキュラムを行います。

立川志の春氏(英語家、カリキュラム日本の笑い『落語』を世界に!)など、各界のスペシャリストによる講義は一般の方の聴講も可能です。

詳しくは、左記ホームページまたは、事務局(06-63657-0000)まで。

↑ 2015年7月24日(金)
産経新聞 夕刊

2015年5月28日(木) →
保険毎日新聞

きらめき未来塾2015

8月に愛知県豊田市で合宿研修

次世代担うリーダー養成



昨年は75人の生徒が参加



多数のカリキュラムが設けられている

京都大学アメリカンフットボール部前監督の水野彌一氏が理事長を務める認定NPO法人きらめき未来塾2015」が、8月7日から10日まで愛知県豊田市の全トヨタ労働研修センター「つどいの丘」で開催される。高校生対象の3泊4日の夏期合宿研修で、国際

本、地域社会で活躍する有能な人材、将来的に日本を支えるリーダーを養成することを基本理念に行われており、参加は無料。

今年も同塾名誉塾長であるアフラック創業者の大竹美喜氏による講義「夢の実現に向けて」(New Give in)をはじめ、各界の第一線で活躍する講師陣の講義やディスカッション、レクリエーションの他、チームビルディング、ロボコン実習、発表会など多彩なカリキュラムが予定されている。

同塾は2005年開始以来、今回で11回目を迎える。昨年までの延べ参加者は406校、参加者は794人になる。11年は79人になる。

富田生命は6月1日から26日まで 同塾には、誰がいのある子ども

に、同塾への寄付金が税額控除・所得控除の対象となる「認定特定非営利活動法人」(認定NPO法人)認定を受けた。講義は一般の人も聴講が可能。詳しくは同塾ホームページ(<http://kiramekimiraijuku.jp>)か、事務局(電話06-63657-3333)まで。

17. 後援（順不同）

大阪府教育委員会	兵庫県教育委員会	京都府教育委員会
広島県教育委員会	香川県教育委員会	宮城県教育委員会
愛知県教育委員会	洲本市教育委員会	飛騨市教育委員会
登米市教育委員会	京都市教育委員会	
日本私立中学高等学校連合会	大阪私立中学校高等学校連合会	
兵庫県私立中学高等学校連合会	京都府私立中学高等学校連合会	
洲本市	登米市	飛騨市
登米市	淡路信用金庫	洲本商工会議所
(一社)淡路青年会議所	産業経済新聞社	神戸新聞社
ホテルニューアワジ	洲本商工会議所	

18. 協賛（順不同）

アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社） エース損保株式会社

19. 認定NPO法人きらめき未来塾会員（2015年3月現在）

法人・団体（順不同）

アクトレップ株式会社	株式会社ユナイテッドワークス
ジェイ・ケイ・トラベル株式会社	株式会社リンクコンサルティング
医療法人 健昌会	株式会社ワイコム
医療法人きらめき会 大井整形外科	株式会社徳育社
株式会社IAGコーポレーション	株式会社読売城東販売
株式会社RCC文化センター	株式会社日豊社
株式会社アイビーエス	株式会社日本ビジネス・リンク
株式会社アテナ	株式会社法円坂メディカル株式会社
株式会社グッデイ	関西アイエヌエスサービス株式会社
株式会社シティープロパティ	国際保険株式会社
株式会社ジャパンファミリー	太陽ASG有限責任監査法人
株式会社ディヴォーション	緑風観光株式会社

個人（順不同）

赤井田 民義	大山 宏	下垣 真希	林田 徹	山田 茂善
葭 範夫	岡本 英三	鈴木 規夫	淵澤 理乃	山田 庸男
伊藤 啓司	奥田 将人	曾我 省吾	前田 嘉昭	山幡 一雄
井上 泉博	川壁 正彦	瀬川 祐二	松浦 三郎	山本 雅弘
上島 一泰	木内 正俊	竹岡 和彦	松岡 大藏	吉澤 恵
上島 康男	北野 公造	伴野 國久	松澤 一夫	吉本 祥生
浮氣 利廣	木下 智太	中井 保	松本 茂	若原 康正
大石 正守	國谷 昌賢	長沼 三郎	水野 彌一	和田 博明
大川 哲次	齋藤 洋一	西澤 良臣	宮本 暁	和田谷 笑子
大崎 剛	三枝 輝行	野坂 敏博	靱山 敏雄	
大竹 美喜	坂口勝之	野田 智義	柳田 竜也	
大竹 良樹	笹原 政美	野々上 孝義	矢野 巖	
大沼 利行	塩崎 隆幸	馬場 俊和	山田 明仁	

20. ご寄附いただいた法人・団体・個人の皆様（2015/10/31 現在）

法人・団体（順不同）

株式会社 RCC 文化センター	株式会社 IAG コーポレーション
株式会社アイビーエス	株式会社アテナ
アドベンチャーコーチング株式会社	淡路信用金庫
株式会社ウイング	弁護士法人梅ヶ枝中央法律事務所
株式会社エイフ	株式会社エクセルインターナショナル
株式会社エヌウィック	エフピーサポート株式会社
M.A ビジネス株式会社	株式会社エーアンドケー
オリーブ株式会社	株式会社片岡製作所
医療法人社団槻萌会	九州共栄ファミリー株式会社
株式会社京伸	医療法人健昌会
株式会社晃菱	国際保険株式会社
株式会社国際 BLS	医療法人国手医仁会
コスモ警備保障株式会社	サロン君屋
株式会社山越	ジェイ・ケイ・トラベル株式会社
株式会社ジャパンファミリー	株式会社ショウワコーポレーション
株式会社タナカカメ	株式会社 WCL ソリューション
中央労務事務所	中国企業株式会社
株式会社中国放送	ソーサン株式会社
株式会社ディヴオーション	帝燃産業株式会社
東京レジャー開発株式会社	株式会社日商エイジェンシー
株式会社ニットーファミリー	株式会社日豊社
株式会社日本医学臨床検査研究所	ノイエス株式会社
株式会社フジキン	北海道ファミリー株式会社
株式会社ホテルニューアワジ	株式会社マミ
株式会社三石ハイセラム	株式会社ミヤガワ
株式会社ユウキ設備	読売ゴルフ株式会社
リゾートトラスト株式会社	緑風観光株式会社

World Tree

個人（順不同）

葎 範夫	上島 康男	植田 寛重	浮氣 利廣	大川 哲次
大竹 美喜	大槻 領子	岡本 英三	奥村 繁夫	柏崎 昇一
勝田 泰久	加藤 仁	川壁 正彦	川島 哲三	木村 道弘
合田 敏弘	小林 勉	小山 健治	齋藤 洋一	定久 彰利
下垣 真希	新貝 寿行	杉本 香世子	鈴木 規夫	住川 功
高橋 直英	竹岡 和彦	鍋島 雅代	西澤 良臣	野々上 孝義
延原 敏朗	畑 守人	濱本 英輔	林田 徹	松浦 三郎
松尾 雅彦	松岡 大蔵	松澤 一夫	水野 彌一	水本 佑亮
村岡 正啓	森本 一晶	山幡 一雄	吉澤 恵	若杉 公一
和田谷 笑子				

21. 理事会

理 事 長	水野 彌一	(京都大学アメリカンフットボール部 前監督)
名 誉 理 事 長	齋藤 洋一	(神戸大学名誉教授、 社会福祉法人恩賜財団 済生会中津病院 名誉院長)
理 事 (名 誉 塾 長)	大竹 美喜	(アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)創業者)
理 事 (塾 長)	下垣 真希	(ソプラノ歌手、名城大学大学院 多文化共生論講師 名城大学 ドイツ語講師)
理 事 (塾 長 補 佐)	前田 嘉昭	(大阪教育大学講師/元大阪府立阿倍野高等学校 校長)
理 事	若原 康正	(緑風観光株式会社 代表取締役社長)
理 事	山幡 一雄	(緑風観光株式会社 専務取締役)
理 事	鈴木 規夫	(社団法人日本ゴルフツアー機構 理事)
理 事	山田 庸男	(弁護士法人梅ヶ枝中央法律事務所 所長、 元大阪弁護士会 会長、弁護士)
理 事	松浦 三郎	(一般社団法人学習評価研修所 所長)
理 事	西澤 良臣	(国際保険株式会社 顧問)
監 事	植田 寛重	(植田寛重税理士事務所 税理士)
特 別 顧 問	濱本 英輔	(株式会社ロッテ 顧問)
特 別 顧 問	坪井 一字	(大阪経済法科大学 教養学部教授、元参議院議員)
特 別 顧 問	松岡 大藏	(税理士、大阪国税局元徴収部長、桜美会(国税局OB会)会長)
特 別 顧 問	瀧川 好美	(淡路信用金庫 会長)
特 別 顧 問	木下 紘一	(洲本商工会議所 会頭、ホテルニューアワジ 代表取締役社長)

22 事務局・サポーター・ワールドカフェ ファシリテーター

大阪事務局	事務局長	西澤 良臣
	スタッフ	大崎 剛
		近藤 由美子
		櫻井 宇多
		宮城 裕美
		小谷 登
広島事務局	事務局長	神田 雪子
	スタッフ	新谷 雅司
		山崎 章子
東京事務局長		松浦 三郎
事務局アドバイザー		小松 としゑ
		宮原 あけみ

サポーター

石松 千咲	(大阪府立西淀高等学校 教諭)
大宅 穂香	(手塚山学院大学 人間科学部 情報メディア科・2013年卒塾生)
小林 拓郎	(エース損害保険株式会社)
野村 奈央	(神戸大学 発達科学部 1年・2013年卒塾生)
樋口 栞菜	(国際教養大学国際教養学部 3年)
村上 善昭	(株式会社 RCC 文化センター)
山内 里奈	(関西学院大学 総合政策学部 1年・2013年卒塾生)
山内 美貴	(岡山理科大学 理学部 3年・2011年度塾生)
山崎 友也	(国際教養大学国際教養学部 3年)
宮地 賢和	(大阪府立だいせん聴覚支援学校 社会科教諭)
若杉 昌哉	(ニューヨークの監査法人 勤務)

ワールドカフェ ファシリテーター

五十嵐 正樹	(一般社団法人学習評価研究所 代表理事)
高岸 佳以	(看護学生・2011卒塾生)
武 宏美	(阪南病院 臨床心理士)
櫃本 紗代	(弁護士法人 勤務・2007年卒塾生)
村松 知明	(三菱商事)
吉岡 奏恵	(関西学院大学 2年・2012年度塾生)

協力

きらめき未来塾同窓会実行委員

瀬戸 康平
濱口 あかね
山道 優花



きらめき未来塾 2015 報告書

2015年12月28日初版発行

編 集 きらめき未来塾事務局
発 行 認定NPO法人きらめき未来塾
〒530-0044
大阪市北区東天満 1-12-13
TEL.06-6357-3335 FAX.06-6357-3354
<http://kiramekimirajuku.jp>

当塾に対するご意見、ご感想お待ちしております。



認定 NPO 法人きらめき未来塾

〒 530-0044 大阪市北区東天満 1-12-13 IAG 天満ビル
TEL 06-6357-3335 FAX 06-6357-3354

Mail : info@kiramekimiraijuku.jp
URL : <http://kiramekimiraijuku.jp>